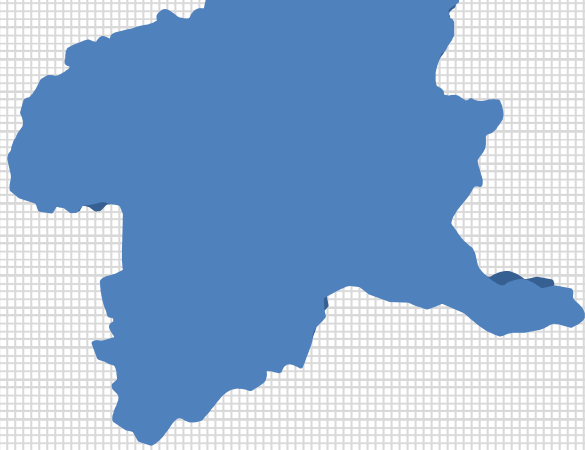


県土整備部事業概要



2019年版



元気



安全



魅力



環境

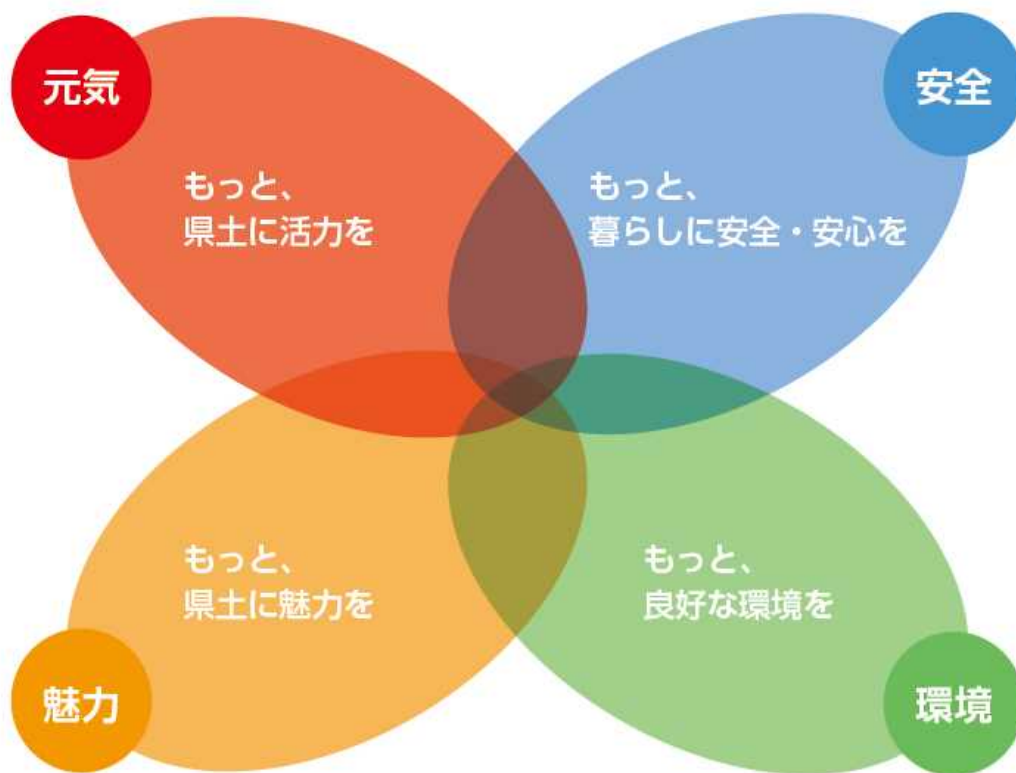


県土整備部の基本方針

○ 将来像の実現に向けた取組の体系

目指す将来像

自然と共生し、未来に向けて、持続的にはばたける地域



取組方針

目指す将来像の実現に向け、これまで講じてきた施策を再構築し、「元気」「安全」「魅力」「環境」の4つの基本目標ごとに柱となる政策を掲げます。これらの政策を連携させながら、群馬の価値(暮らしやすさ)の向上を目指します。

基本目標

人口減少が本格化し、今後も人口構成の大きな変化が見込まれる中、目指す将来像である「自然と共生し、未来に向けて、持続的にはばたける地域」の実現に向けて、県民の暮らしやすさに配慮した持続可能な県土づくりを推進します。

ここでいう持続可能とは、将来の環境や次世代の利益を損なわないよう社会発展を進めようとする考えであり、先人から受け継いできた限りない可能性をしっかりと活かし、群馬の未来を創生していくため、「元気」「安全」「魅力」「環境」の4つの基本目標を掲げ、群馬県型の社会資本整備を進めていきます。

元気：もっと、県土に活力を

地域間競争が更に激しさを増す中、生産性の高い、活力のあるぐんまの経済活動を支えるための「道路ネットワークの整備」や、本県が取り組む主要プロジェクトの整備を促進する社会資本整備を推進します。

→p.6

安全：もっと、暮らしに安全・安心を

頻発・激甚化する気象災害、切迫する巨大地震への対応など、「災害に強い県土づくり」とともに、「安心して生活・移動できる環境づくり」に取り組みます。また、県民の暮らしや社会経済活動を支える「社会資本の戦略的な維持管理・更新」を推進します。

→p.10

魅力：もっと、県土に魅力を

人口減少と高齢化が同時に進行する局面でも、都市部から中山間地域に至るまで、誰もが買物や通院など生活に必要なサービスを受容しやすく、安心して豊かな暮らしを持続できるよう、「まちのまとまり」の維持と、それらをつなぐ「多様な移動手段の確保」に取り組み、生活の質の高い魅力ある県土づくりを推進します。

→p.26

環境：もっと、良好な環境を

環境への負荷が少なく環境の質が高い、豊かで持続的に発展する環境県群馬を目指すとともに、将来の県民に良好な環境を引き継ぐため「生活環境・自然環境の保全」や「低炭素・循環型社会づくり」を推進します。

→p.40

参考：県土整備部の予算と推移

→p.47

コラム：社会資本整備の取り組み方を変える

→p.49

◎「平成31年度県土整備部概要」では、県土整備の主要事業を以下のとおりに分類し、記載しています。

基本目標1：元気 もっと、県土に活力を	
政策1：道路ネットワークの整備	施策1：「7つの交通軸」の整備・強化
政策2：主要プロジェクト整備の促進	施策1：主要プロジェクト関連施設整備
基本目標2：安全 もっと、暮らしに安全・安心を	
政策3：災害に強い県土づくり	
施策1：災害時の避難のサポート	施策2：災害防止対策
施策3：災害時にも機能する社会資本・体制整備	施策4：災害時の孤立防止対策
政策4：安心して生活・移動できる環境づくり	
施策1：交通事故防止対策	施策2：バリアフリー推進
施策3：中核的医療施設 へのアクセス向上	
政策5：社会資本の戦略的な維持管理・更新	
施策1：社会資本の長寿命化対策	施策2：効率的な社会資本の維持管理
基本目標3：魅力 もっと、県土に魅力を	
政策6：持続可能な地域づくり・まちづくり	
施策1：まちのまとまりとネットワークの形成	施策2：観光ネットワークの構築
政策7：多様な移動手段の確保	
施策1：鉄道・バスが運行されていない地域の移動手段の確保	施策2：鉄道・バスが運行されている地域の移動手段の確保
政策8：良好なまち並みと快適な住まいづくり	
施策1：地域の誇れる景観づくり	施策2：快適な居住環境づくり
施策3：安心して暮らせる住まいづくり	施策4：長く大切に使う住まいづくり
政策9：ハッ場ダム関連事業の促進	
施策1：生活再建等関連事業の促進	施策2：ダム湖を活用した新たな魅力づくり
基本目標4：環境 もっと、良好な環境を	
政策10：生活環境・自然環境の保全	
施策1：生活環境の保全	施策2：自然環境の保全
政策11：低炭素・循環型社会づくり	
施策1：地球温暖化対策	施策2：循環型社会づくり
社会資本の整備と維持管理の担い手の確保・育成	
方策1：建設産業の働き方改革	方策2：建設現場の生産性向上

◎県土整備部の基本方針のもと、平成31年度は以下の目標・重点施策を推進していきます。

《県土整備部の目標》

職員一丸となって

県民の^{いま}今を支え

あす^{いしずえ}明日の礎を築く



《平成31年度県土整備部の重点施策》

1 7つの交通軸・公共交通の整備・強化

【多様な移動手段の確保:自動車以外の移動手段も選択できる社会へ】

2 防災・減災対策の推進



3 ハツ場ダム関連事業の促進



基本
目標 1

元気

もっと、県土に活力を

地域間競争が更に激しさを増す中、生産性の高い、活力のあるぐんまの経済活動を支えるための「道路ネットワークの整備」や、本県が取り組む主要プロジェクトの整備を促進する社会資本総合整備を推進します。

政策 1

道路ネットワークの整備

施策 1

「7つの交通軸」の整備・強化

【予算額】16,884,290千円※

政策 2

主要プロジェクト整備の促進

施策 1

主要プロジェクト関連施設整備

【予算額】1,345,990千円※

※施策ごとの予算のため重複する場合があります。

政策 1

道路ネットワークの整備

活力あるぐんまの経済活動を支える高速交通網のストック効果を県内すべての地域や産業の発展に活かすため、広域的な道路ネットワークの整備を推進します。

施策 1

「7つの交通軸」の整備・強化

【予算額】 16,844,290 千円

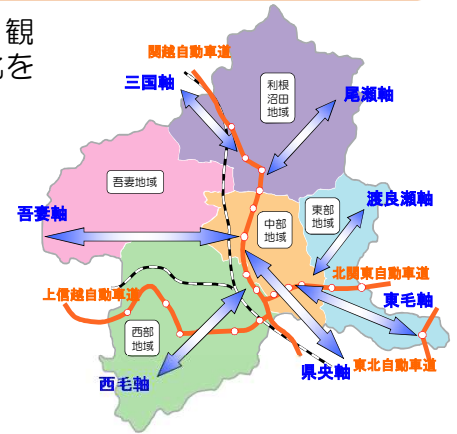
高速交通網の効果を県内すべての地域に行き届けさせ、産業の発展、観光振興などの地域活性化を図るため、「7つの交通軸」の整備・強化を推進します。

(1) 「主軸」の整備

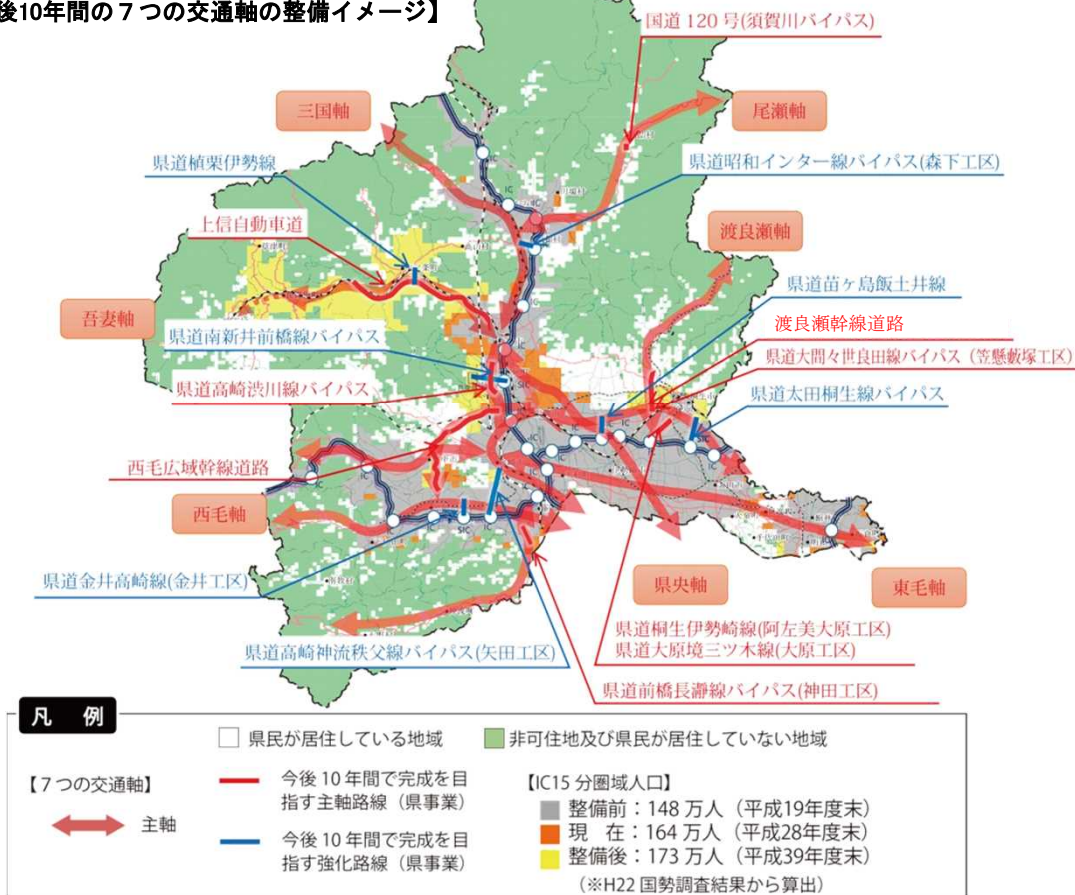
移動時間短縮による地域間連携を促進するため、県内7方向に「主軸」となる広域的な幹線道路を整備します。

(2) 「強化路線」の整備

高速道路ICと「主軸」を結び、更なるアクセス強化を図る「強化路線」を整備します。



【今後10年間の7つの交通軸の整備イメージ】



(3) スマートICの整備促進

既存の高速道路を有効活用し、物流の効率化、地域の活性化、利便生の向上等を促進するため、市町村とともに新たなスマートICの整備に向けた検討を行います。

(4) 県の経済活動を支える物流拠点の整備と物流ネットワークの形成

新たな企業誘致や更なる産業振興を支援するため、物流拠点の形成に向けた土地利用や、首都直下地震時にバップアップ機能を果たす物流拠点の整備と物流ネットワークの形成に取り組みます。

●主軸の整備

渋川・吾妻地域の観光振興や農産物の販路拡大による地場産業の振興、中核的医療施設へのアクセス向上等を図るため、道路整備を推進します。

- ・上信自動車道（渋川市～東吾妻町）

沿線の主要観光地の周遊性向上による観光振興や、物流の効率化による産業振興、広域的な地域間連携の強化による県民生活の利便性向上等を図るため、道路整備を推進します。

- ・西毛広域幹線道路（高崎市～富岡市）

●強化路線の整備

関越自動車道駒寄スマートICと、県道高崎渋川線や防災拠点（陸上自衛隊相馬ヶ原駐屯地）を結び、地域住民の利便性向上や災害時の迅速な救命救助・復旧復興を可能にするため、道路整備を推進します。

- ・県道南新井前橋線バイパス（前橋市～榛東村）

上信自動車道と中之条町の中心市街地を結び、地域住民の利便性向上や、更なる観光・産業振興を図るため、道路整備を推進します。

- ・県道植栗伊勢線（中之条町）

●スマートICの整備促進

甘楽PAスマートIC(仮)の供用開始に向け、アクセス道路（県道金井小幡線）の整備（富岡市）などを推進します。

●県の経済活動を支える物流拠点の整備と物流ネットワークの形成

効率的な物流拠点整備に必要な工場・物流施設を適正に立地誘導するため、都市計画区域マスタープランの改定を進めます。



進捗状況



進捗状況



進捗状況

今年度のトピックス

- ・上信自動車道 金井バイパス・川島バイパス・祖母島～箱島バイパス（渋川市～東吾妻町）H31年度事業完成予定

上信自動車道（金井・川島・祖母島～箱島）バイパス整備事業

事業の効果



～整備前～



国道353号 北群馬橋交差点の渋滞状況

◆国道353号では、朝夕の通勤時間帯を中心として、交通混雑が発生しており、移動に時間がかかります。



国道353号斜面崩壊

◆斜面崩壊の発生や地すべり危険箇所が存在し、災害時に通行止めがたびたび発生しています。

現道の状況

～整備後～

◆高速道路に準じた構造の道路が整備されることで、速達性と定時性の高い走行が可能となり、移動時間が短縮されます。
◆国道353号の危険箇所を回避するとともに、災害時の代替路となる新たな道路ネットワークが確保されます。



完成イメージ

上信自動車道の全線開通で渋川伊香保ICから草津市までの移動時間が約30分短縮（約90分→約60分）

政策2

主要プロジェクト整備の促進

本県の主要プロジェクトである「人・モノ・情報」を呼び込む群馬コンベンションセンター「Gメッセ群馬」の整備や、世界遺産である「富岡製糸場と絹産業遺産群」などの集客効果を県内の各地域の活性化につなげるため、アクセス道路の整備や無電柱化などの景観整備に取り組みます。

施策1

主要プロジェクト関連施設整備

【予算額】1,345,990千円

(1) Gメッセ群馬関連施設整備

2020年春の「Gメッセ群馬」の施設開所に向け、施設利用者の利便性向上のため、アクセス道路の整備を推進します。

(2) 世界遺産関連施設整備

世界遺産である「富岡製糸場と絹産業遺産群」の更なる魅力向上のため、景観に配慮した道路整備を推進します。



平成31年度

主要事業の概要

● Gメッセ群馬の関連道路整備

Gメッセ群馬の施設開所に向け、玄関口となる道路整備を推進します。

- ・ (都) コンベンション施設北口線 (高崎市)

施設開所後における周辺道路の交通渋滞を緩和させるため、道路拡幅を行います。

- ・ (都) 競馬場通り線 (高崎市)

● 世界遺産関連施設整備

富岡製糸場周辺における魅力的なまち並みの形成を図るため、沿道の無電柱化を推進します。

- ・ 県道富岡神流線(仲町通り)電線共同溝整備 (富岡市)



Gメッセ群馬の進捗状況

2020年春オープンの「Gメッセ群馬」って何？



“Gメッセ群馬”は、JR高崎駅から徒歩約15分、関越自動車道高崎玉村スマートインターチェンジからは車で約15分の場所に建設を進めているコンベンション施設です。地域の賑わいを創出する施設であり、展示会やコンサートなども開催できる施設です。

「人・モノ・情報」を呼び込む拠点として、企業のビジネスチャンス拡大や交流人口の増加により、都市力を高め、県内の幅広い産業の活性化や、若者・女性などの雇用の場の創出等の効果が期待されます。



外観イメージ図



大会議室イメージ図



展示ホールイメージ図



展示ホールイメージ図 (音楽イベント)

基本 目標 2

安全

もっと、暮らしに安全・安心を

頻発・激甚化する気象災害、切迫する巨大災害への対応など、「災害に強い県土づくり」とともに、「安心して生活・移動できる環境づくり」に取り組みます。

また、県民の暮らしや社会経済活動を支える「社会資本の戦略的な維持管理・更新」を推進します。

政策 3 災害に強い県土づくり

施策 1 災害時の避難のサポート 【予算額】 699,000 千円※

施策 2 災害防止対策 【予算額】 11,182,756 千円※

施策 3 災害時にも機能する社会資本・体制整備 【予算額】 18,884,987 千円※

施策 4 災害時の孤立防止対策 【予算額】 902,800 千円※

政策 4 安心して生活・移動できる環境づくり

施策 1 交通事故防止対策 【予算額】 6,150,328 千円※

施策 2 バリアフリー推進 【予算額】 2,318,972 千円※

施策 3 中核的医療施設へのアクセス向上 【予算額】 15,718,374 千円※

政策 5 社会資本の戦略的な維持管理・更新

施策 1 社会資本の長寿命化対策 【予算額】 11,453,779 千円※

施策 2 効率的な社会資本の維持管理 【予算額】 9,076,125 千円※

※施策ごとの予算のため重複する場合があります。

政策 3

災害に強い県土づくり

災害に強い「安全」な県土づくりを進めるとともに、災害時の被害を最小限にとどめるための備えを万全にし、県民の命と暮らしを守ります。

施策 1

災害時の避難のサポート

【予算額】

699,000 千円

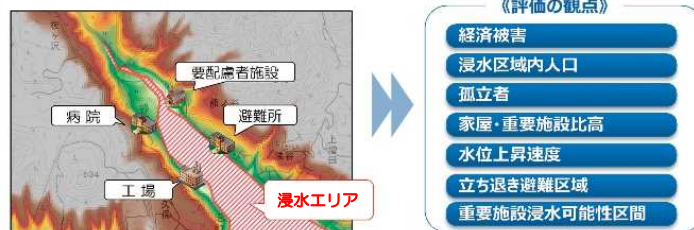
(1) 水害や土砂災害による危険な場所を周知

水害や土砂災害による危険な場所を周知し、市町村の避難計画作成を支援します。



(2) 県内全河川を対象にした水害リスク調査の実施

県管理の全428河川の水害リスクを調査し、市町村に情報提供を行い、減災対策に役立てます。



(3) 「減災対策協議会」における取組

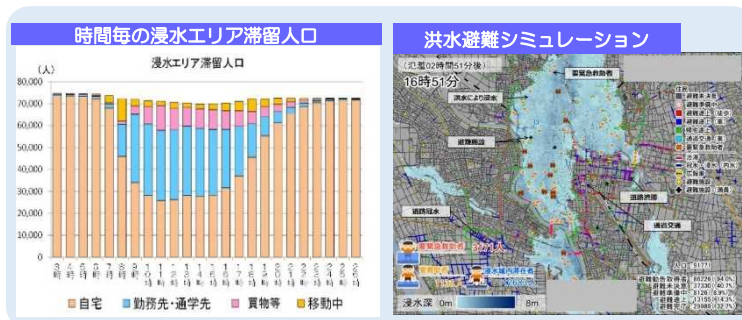
減災目標を共有し、各機関の取組方針を定め、進捗状況のフォローアップを行います。

《検討・実施項目》

- ハザードマップの見直し支援
- 重要水防筒所の見直しによる監視強化
- 水害タイムラインの作成
- 市町村長へのホットラインの構築
- 河川監視カメラの整備と画像配信
- 洪水を安全に流下させる対策（堰がせ等）

(4) 避難を支援するためのパーソントリップ調査の活用

PT調査で明らかになった住民分布を用いて、洪水時の避難行動を分析し、避難方策を検討します。



(5) 防災力を高める人材育成

住民の意思で適切な避難ができるよう、防災意識向上や知識習得に向けた取組を進めます。



(6) 要配慮者利用施設への避難支援

自力避難が困難な方の円滑な避難に向け、市町村と連携し避難計画策定や避難訓練実施を支援します。



(7) 円滑な避難行動を支援する防災情報の発信

市町村の避難勧告発令の判断や住民の避難行動を支援するため、わかりやすい防災情報の提供など「住民目線のソフト対策」を推進します。



(8) 火山噴火に対する住民避難の支援

噴火時における住民の円滑な避難をサポートするためのソフト対策に取り組みます。

●水害や土砂災害による危険な場所を周知 【河川の水位周知区間追加】

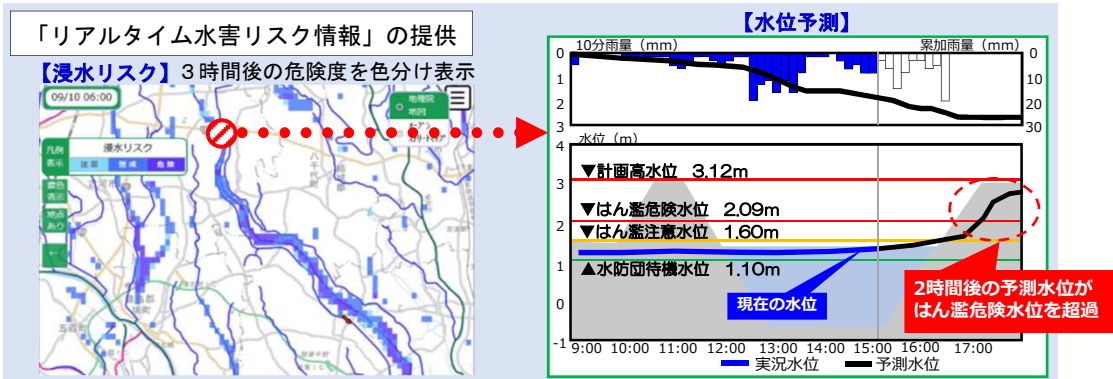
住民への水害リスクの更なる周知を目指し、水位を住民へ知らせる区間の追加検討を実施します。

【土砂災害計画区域等の見直し・公表】

13市町村で土砂災害警戒区域等の見直しのための基礎調査を実施し、結果を随時公表します。

●県内全域の浸水予測システムの構築に着手

気象庁降雨短時間予報を取り込んだ県内全域の浸水予測が可能な「リアルタイム水害リスク情報」のシステム構築に着手します。（平成33年度完成予定）



●「減災対策協議会」における取組

水害リスク想定マップに基づき、主要19河川を含む428河川全ての県管理河川について減災に関する取組方針を決定します。また、県内35市町村とのホットラインを構築するなど、引き続き減災対策に関する取組をます。

●避難を支援するためのパーソントリップ調査の活用

複数市町村にまたがる広域避難のモデル地区を選定し、洪水時の避難シミュレーションを行い、広域避難の課題と対応方策を検討します

●防災力を高める人材育成

【洪水対応演習、合同点検の実施】

洪水時の情報伝達を確実にするため、関係機関による洪水対応演習を実施します。また、洪水時に地域住民が自ら危険を察知し自主的に避難できるよう、地域住民と関係機関が参加する重要水防箇所の合同点検を実施します。

【住民が主体となった防災マップの作成・避難訓練の実施支援】

市町村へ土砂災害・防災等の専門家を派遣し、住民が主体となって土砂災害に係る防災マップの作成及び避難訓練等を行うことで、地域の防災力向上を支援します。

●要配慮者利用施設への避難支援

【土砂災害警戒区域】

高崎市、渋川市、太田市、桐生市、神流町、南牧村、上野村、片品村の要配慮者利用施設を対象に、土砂災害に係る避難計画の策定を支援します。

【洪水浸水想定区域】

水害リスク想定マップを基に、主要19河川以外の河川にも避難確保計画作成の取組が拡大するよう呼びかけるとともに、市町村と連携して避難確保計画の作成支援を行います。

●円滑な避難行動を支援する防災情報の発信

【危機管理型水位計の設置】

水位計が未設置の浸水の恐れがある中小河川について、避難判断のための危機管理型水位計の設置を進めます。平成31年度は60箇所を設置し、平成32年度までに全278箇所の設置を完了します。

【簡易型河川監視カメラの設置】

水位計と合わせ、洪水時に水位状況を画像として情報提供することで、速やかな避難行動を促すため、簡易型河川監視カメラの設置を進めます。平成31年度に全52箇所を設置完了します。

【土砂災害警戒情報】

土砂災害警戒情報の発表基準を見直し、情報の精度向上を図ります。また、住民にわかりやすい防災情報の提供のためシステムの改修を行います。



(1) 水害対策

近年被害が発生した地域、人口・資産が集中する地域等において、河川改修や調整池整備、堤防強化等を推進します。



(2) 土砂災害対策

土砂災害による被害を軽減させる砂防堰堤、がけ崩れ防止施設等の整備および堆積土除去を推進します。



● 水害対策

【河川改修】

人家等の水害による被害を軽減するために、川幅を拡げたり、堤防をつくります。

- ・一級河川 寺沢川（前橋市）
- ・一級河川 利根川（伊勢崎市～玉村町）
- ・一級河川 井野川（高崎市）
- ・一級河川 休泊川（大泉町～太田市） ほか



一級河川寺沢川 施工状況

【調節池整備】

人家5,195戸の水害による被害を軽減するために、洪水を貯留する調節池をつくります。

- ・一級河川 石田川（太田市）



一級河川井野川 施工状況

【堤防強化】

人家等の水害による被害を軽減するために、調査により脆弱であると判断された堤防を強化します。

- ・一級河川 谷田川（板倉町）



千原地区 擁壁施工状況

● 土砂災害対策

【土石流対策】

人家、高齢者施設等の土砂災害による被害を軽減するために、砂防えん堤をつくります。

- ・森沢（藤岡市）
- ・下町南沢（下仁田町） ほか



西久方町一丁目1地区 崩壊土砂防護柵施工状況

【がけ崩れ対策】

人家、保育園、避難所(小学校)等の土砂災害による被害を軽減するために、擁壁や防護柵をつくります。

- ・千原地区（南牧村）
- ・西久方町一丁目1地区（桐生市） ほか

今年度のトピックス

- | | |
|----------------------|-----------|
| ・千石沢3 土石流対策（渋川市） | H31年度事業着手 |
| ・与喜屋沢 土石流対策（長野原町） | H31年度事業着手 |
| ・はるな郷A地区 がけ崩れ対策（高崎市） | H31年度事業着手 |
| ・大栃地区 がけ崩れ対策（藤岡市） | H31年度事業着手 |

事業の効果



一級河川 休泊川 河川改修

～整備前～

大雨の時は周辺道路の高さまで水位が達します。



平成27年7月（台風11号）

～整備後～

水があふれないよう川幅を広げています。



平成29年12月（工事中）

与喜屋沢 土石流対策

～整備前～

豪雨等により、土石流が発生する危険があります。



事業前の状況

保全対象（避難所）

～整備後～

砂防えん堤により、土石流を受け止めます。



事業後の状況（イメージ）

施策3

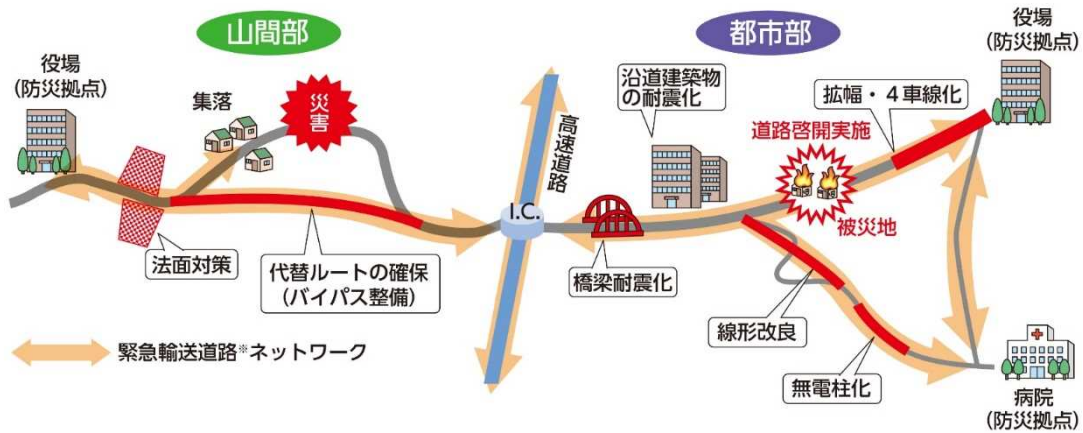
災害時にも機能する社会資本・体制整備

【予算額】

18,884,987千円

(1) 緊急輸送道路ネットワークに基づく災害に強い道路整備・管理体制の構築

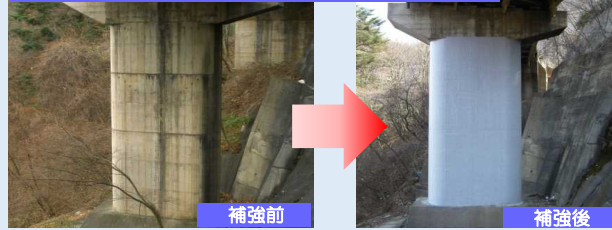
大規模な災害に対して円滑な避難や迅速な救命救助、復旧復興を可能にするため、緊急輸送道路ネットワークに基づく災害に強い道路整備を推進します。



無電柱化の例 (国道254号：富岡市)

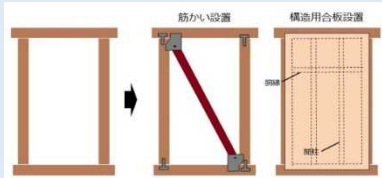


橋梁耐震化の例 (国道254号11号橋：下仁田町)



(2) 災害に強い住まいづくり

市町村と協調して、耐震改修費用の一部を補助することにより、住宅の耐震化を促進します。



木造住宅耐震化の例



耐震改修費用の一部を補助することにより、耐震診断義務づけ建築物、病院、福祉施設の耐震化を促進します。

大規模建築物耐震化の例



(3) 災害に強い都市づくり

土地区画整理事業などの施行により、道路、公園等の都市基盤を整備し、避難・延焼遮断空間を確保するとともに、倒壊・焼失の危険性が高い老朽建築物の更新を促進することで、防災機能の向上を図ります。

土地区画整理



(4) 災害発生に備えた人的支援体制整備

大規模災害時に、県内外の被災地に適時適切に職員を派遣できる体制を整備するとともに、災害派遣業務に必要な研修を実施し、職員のスキルアップに努めます。

研修状況 (机上模擬査定)



研修状況 (現地模擬査定)



派遣先での活動状況 (熊本地震)



● 緊急輸送道路ネットワークに基づく災害に強い道路整備・管理体制の構築

【落石対策】

地震や豪雨時の落石等による道路寸断を防止するために、斜面の補強や道路を崖から離す整備を行います。

- ・ 国道353号 村上工区（渋川市）
- ・ 国道120号 菅沼工区（片品村）
- ・ 国道292号 草津工区（草津町）

【無電柱化】

地震時の電柱倒壊による道路寸断を防止するために、電線類を地中化します。

- ・ 県道前橋箕郷線 国領町工区（前橋市）
- ・ 県道一本木平小井戸安中線 安中工区（安中市）
- ・ 県道藤岡本庄線 藤岡工区（藤岡市）
- ・ （都）中央通り線（館林市）

【橋梁耐震化】

地震時の橋の破損による道路寸断を防止するために、橋の部材を補強します。

- ・ 県道足利邑楽行田線 武蔵大橋（千代田町）
- ・ 県道前橋大間々桐生線 粕川橋（前橋市）
- ・ 県道高崎神流秩父線 城南大橋（高崎市）

● 災害に強い住まいづくり

【木造住宅の耐震化】

市町村と協調して、個人の木造住宅の耐震改修又は耐震シェルター設置に対して補助します。

【大規模建築物の耐震化】

耐震義務付け建築物、病院、福祉施設の耐震化に対して、費用の一部を補助します。

【住宅の部分的な耐震化】

住宅の耐震化促進のために、住宅全体の耐震改修よりも安価である部分的な耐震改修及び耐震シェルターの開発を図ります。

● 災害に強い都市づくり

【土地区画整理事業の推進】

伊勢崎駅周辺第一地区（伊勢崎市）
尾島東部地区（太田市）ほか

● 災害発生に備えた人的支援体制整備

平成31年度「災害派遣チーム」を編成し、緊急時に備えるとともに、災害派遣業務に必要なスキルを習得するための「災害特別研修」を開催します。



国道353号 村上工区 施工状況



国道120号 菅沼工区 施工状況



県道前橋大間々桐生線 粕川橋施工状況



県道藤岡本庄線 藤岡工区 施工状況

事業の効果



県道前橋箕郷線 国領町工区 電線共同溝

～整備前～

地震時に電柱が倒れ、道路の寸断の恐れがあります。



～整備後～

電柱がなくなることで、安全な通行空間を確保します。



イメージ

県道前橋大間々桐生線 粕川橋 橋梁耐震化

～整備前～

地震時に橋が破損し、道路の寸断の恐れがあります。



施工前状況

～整備後～

橋を補強し、緊急時の安全な通行空間を確保します。



橋脚耐震補強イメージ

(1) 道路防災対策

中山間地域の生活幹線道路が土砂崩壊などにより寸断し、長期にわたり集落が孤立しないよう、道路防災対策を実施します。

落石対策の例（県道会場鬼石線：藤岡市）



対策前



対策後

(2) 暮らしを支える道路整備

中山間地の拠点や集落を結び、住民の暮らしを支える安全な道路整備に取り組みます。

現道拡幅の例（県道上藤生大州線：桐生市）



対策前



対策後

● 道路防災対策

【道路寸断防止のための落石対策の推進】

地震や豪雨時の落石等による道路寸断を防止するために、防護柵等を設置します。

- ・ 県道法師吹路線 永井工区（みなかみ町）
- ・ 県道北軽井沢松井田線 坂本工区（安中市）
- ・ 国道401号 片品工区（片品村）

県道法師吹路線 永井工区



現在の状況

● 暮らしを支える道路整備

【安全な通行空間確保のための現道拡幅】

通行車両の安全な通行空間を確保するために、車と車がすれ違いうことが困難な区間において、道路の拡幅を行います。

- ・ 県道上発知材木町線 透門橋工区（沼田市）
- ・ 県道下仁田臼田線 砥沢工区（南牧村）
- ・ 県道小根山森林公園線 2期工区（安中市）

県道上発知材木町線 透門橋工区



現在の状況



県道下仁田臼田線 砥沢工区



現在の状況

○今年度のトピックス

- | | |
|----------------------|-----------|
| 国道462号 坂原工区線形改良（藤岡市） | H31年度完成予定 |
| 県道上発知材木町線 透門橋工区（沼田市） | H31年度完成予定 |
| 県道小根山森林公園線 2期工区（安中市） | H31年度完成予定 |

事業の効果



県道法師吹路線 永井工区 落石対策

～整備前～

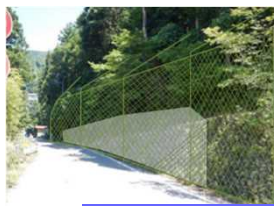
斜面に転石や浮石があり、危険な状態。



危険な斜面

～整備後～

転石固定や斜面の補強により安全な通行空間を確保します。



対策後(イメージ)

県道上発知材木町線 透門橋工区 現道拡幅

～整備前～

道路幅が狭く、カーブが連続し、すれ違いが困難な状況。



道路幅狭小・線形不良

～整備後～

対向車と安全なすれ違いができる道路になります。



道路幅拡大・カーブ減少

政策 4

安心して生活・移動できる環境づくり

子どもや高齢者、障害者など、誰もが安全で安心して暮らせるよう、交通事故の防止に向けた環境整備を進めるとともに、バリアフリーの推進や、安心して医療を受けられる環境づくりに取り組みます。

施策 1

交通事故防止対策

【予算額】 6,150,328 千円

(1) 子どもたちが安心して通学できる環境の整備

学校や警察等の関係機関や地域住民と連携し、通学路等の点検や点検結果を踏まえた歩道整備を推進します。



(2) 交通死亡事故対策

車両の速度抑制対策や、夜間歩行中の視認性向上、交通安全教育を実施します。



(3) 交通人身事故対策（自動車事故）

危険性が高い交差点付近や生活道路の安全性向上を図るため、事故多発箇所や危険箇所の改善、生活道路への通過交通の流入抑制に取り組みます。



(4) 交通人身事故対策（自転車事故）

安全な自転車通行空間を確保するため、矢羽根型路面表示の設置や自転車通行帯の確保、無電柱化等を実施します。



●子どもたちが安心して通学できる環境の整備

【歩道整備】

以下の工区において、児童や生徒が安心して通学できるよう歩道を拡げます。

- ・ 県道藤岡大胡線 本郷工区（藤岡市）
- ・ 県道富岡神流線 小幡第二工区（甘楽町）
- ・ 県道除川板倉線 除川工区（板倉町）
- ・ 県道前橋伊香保線 大久保工区（吉岡町）
- ・ （都）赤城山線（前橋市）



完成後



施工状況



完成後



渋滞状況



計画イメージ



ヘルメット イメージ

●交通死亡事故対策

【速度抑制対策】

車両の速度を抑制するため、車の通行幅を狭める「狭さく」を設置します。

- ・ 県道長久保郷原線 原市工区（安中市）

●交通人身事故対策（自動車事故）

【交差点付近における交通事故防止対策】

交差点において、横断歩行者と車両の事故の注意喚起を促す看板を設置します。

- ・ 県道前橋高崎線 事故対策（高崎市）

交差点付近において、追突事故防止のため「路面標示とタップライン」を設置します。

- ・ 県道渋川東吾妻線 事故対策（東吾妻町）
- ・ 国道120号 事故対策（片品村）

【交差点改良】

交差点付近での事故を抑制するため、交差点の形状を改善します。

- ・ 県道前橋伊香保線 伊香保交差点 交差点改良（渋川市）
- ・ 県道渋川東吾妻線 槻木交差点 交差点改良（東吾妻町）
- ・ 国道120号 大原交差点 交差点改良（沼田市）

●交通人身事故対策（自転車事故）

【自転車通行空間の確保】

中高生の自転車通学経路において、安全に自転車で通学できるよう、自転車専用通行帯や矢羽根型路面表示を整備します。

- ・ 県道古戸館林線（館林市）

【自転車講習会の開催】

高校生の安全な自転車利用と自転車運転のマナー向上のための、スタントマン等による実演を取り入れたスクエアード・ストレイト方式による自転車交通安全教室を開催します。

【自転車ヘルメット着用の促進】

高校生の自転車ヘルメット着用の普及啓発に向けた課題抽出するための「自転車ヘルメット着用モニター事業」を実施するとともに、把握した課題に沿って取組を検討、実施します。

○今年度のトピックス

【H31年度完成予定】

- ・ 県道上神梅大胡線 歩道整備（前橋市）
- ・ 県道沼田水上線 歩道整備（みなかみ町）
- ・ 国道299号 歩道整備（上野村）
- ・ 県道川内堤線 歩道整備（桐生市）

(1) 移動を支援するバリアフリー化

誰もが安全で安心して移動できるよう、鉄道駅、路線バスや歩道等のバリアフリー化を推進します。

【ノンステップバス導入】

乗降口の段差がない乗りやすいバスの導入を促進します

ノンステップバス



【鉄道駅のバリアフリー化】

1日の平均利用者数が、3,000人以上の鉄道駅のバリアフリー化を促進します。

段差解消（エレベーター設置）



高齢者・障害者等対応トイレ



【歩道のバリアフリー化】

歩道と車道との段差をなくし、視覚障害者が車道との区別が認識できるように突起を設置します。

歩道の段差解消・視覚障害者誘導用ブロック設置



(2) 高齢者が居住する住宅のバリアフリー化

高齢者が安全で安心して暮らせる住まいを確保できるよう、住宅のバリアフリー化を支援します。

段差のない居室



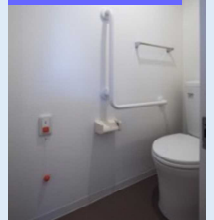
エレベーター、廊下の手すり



屋外スロープ



トイレの手すり



平成31年度

主要事業の概要

●移動を支援するバリアフリー化

【ノンステップバスの導入】

市町村やバス会社など、ノンステップバスの車両購入（3両）を支援します。
（高崎市、多野藤岡広域組合、日本中央バス）

【歩道バリアフリー化】

視覚障害者が安全に歩行できるように、歩道の段差解消を図ります。
・ 県道桐生岩舟線 境野工区（桐生市）

【鉄道駅のバリアフリー化】

駅利用者が安全に上り下りができるように、エレベーターやスロープを設置します。
・ JR高崎線 新町駅 エレベーター設置（高崎市）
・ 上信電鉄 西吉井駅 スロープ設置（富岡市）ほか

●高齢者が居住する住宅のバリアフリー化

【県営住宅のバリアフリー化】

広瀬第二県営住宅（前橋市） 中居県営住宅（高崎市）

県内の中核的な医療施設へ30分でアクセスできる圏域内の人口は、約9割に到達しましたが、更なるアクセス性の向上に向け、7つの交通軸の主軸や強化路線の整備など、誰もが安心して医療を受けられる環境づくりを推進します。

中核的医療施設位置図



平成31年度 主要事業の概要

前橋赤十字病院は、災害拠点病院の中心となる群馬県唯一の「基幹災害医療センター」に指定されています。

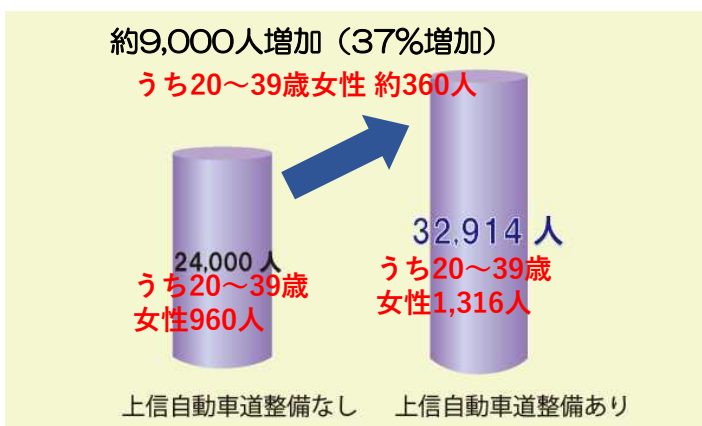
高速道路ICに直結する当バイパス道路の整備により、災害時の医療物資運搬・救護班派遣DMATなど・多数傷病者の受け入れ等の救命救急活動に大きく貢献します。

- ・ 県道前橋玉村線 朝倉工区 (前橋赤十字病院アクセス道路関連)



上信自動車道の整備により、県立小児医療センターまでの所要時間が短縮します。県立小児医療センターまで1時間で到着する範囲は、新たに長野原町の中心部などが含まれることになり、60分圏域人口が9,000人増加します。

- ・ 上信自動車道 (金井バイパス、川島バイパス ほか)



厳しい財政状況の中、社会資本の老朽化や劣化を原因とする事故を防ぎ、県民の安全・安心な生活を守るとともに、メンテナンスに係るトータルコストの中長期的な縮減、平準化を図るため、社会資本の戦略的な維持管理・更新を推進します。

施策 1

社会資本の長寿命化

【予算額】 11,453,779 千円

(1) 社会資本の戦略的な維持管理・更新

社会資本を長期にわたって安全に使用し続けるために、長寿命化計画に基づく戦略的な点検・維持管理・更新を実施し、維持管理・更新費用のトータルコストの中長期的な縮減と平準化を図ります。

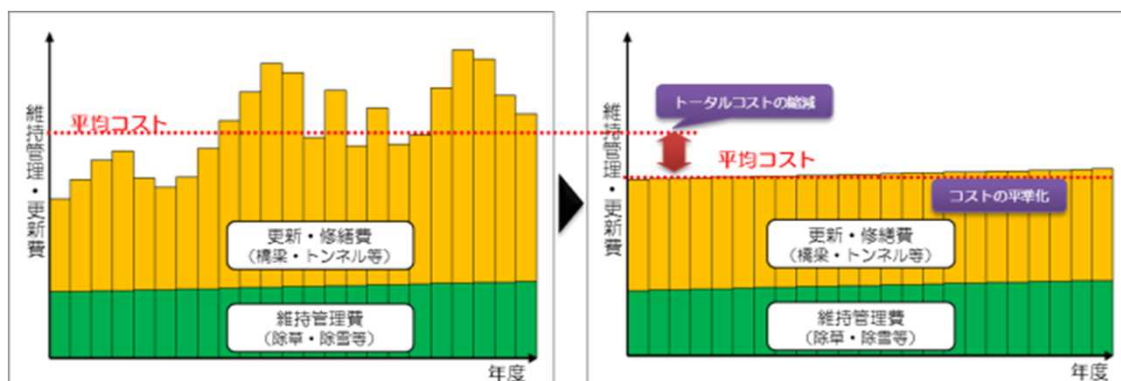
計画名称	策定年度	計画期間	対象施設	施設規模
群馬県道路施設長寿命化計画	H30 (予定)	30年間	横断歩道橋	120橋
			道路トンネル	64箇所
			舗装（自転車道を除く）	3,100km
			道路照明	10,000灯
			自転車道橋梁	32橋
			地下歩道	22箇所
			カルバート	24基
			防雪施設	63基
			防災施設（グラウンドアンカー工、落石防護工、落石予防工）	4,599箇所
			土工構造物 擁壁（路側及び土留） 法面（切土、法枠、コンクリート・モルタル吹付及び盛土）	5,658箇所
			張出歩道	380箇所
			門型標識	11箇所
			大型標識	3,373箇所
			情報板	163基
			消融雪施設	51箇所
群馬県橋梁長寿命化計画	H28	100年間	道路橋	3,665橋
河川構造物長寿命化計画	H28	40年間	排水機場	7施設
			水門・堰等	22施設
			県営ダム	7施設
群馬県砂防関係施設長寿命化計画	H29	50年間	砂防設備（砂防堰堤・床固・渓流保全工）	3,536施設
			地すべり防止施設	67区域
			急傾斜地崩壊防止施設	610区域
			雪崩防止施設	6箇所
都市公園長寿命化計画	H29	30年間	建築物	24施設
			遊具	10施設
下水道長寿命化計画	H23	50年間	下水道施設（県央・奥利根）	処理場2施設ほか
	H24	50年間	下水道施設（西邑楽・桐生）	処理場2施設ほか
群馬県営住宅長寿命化計画	H29	30年間	県営住宅	10,123戸
群馬ヘリポート長寿命化計画	H29	30年間	群馬ヘリポート	1施設

【トータルコストの縮減】

長寿命化計画に基づき、損傷がひどくなる前に、予防的な補修を計画的に実施し、施設の長寿命化を図ることで、中長期的な維持管理・更新に係るトータルコストを縮減することが可能となります。

【コストの平準化】

維持管理・更新に係る費用を計画的に投資していくため、年当たりのコストを平準化します。



● 社会資本の戦略的な維持管理・更新

戦略的な長寿命化対策のため、長寿命化計画に基づき、下記の施設の点検・維持管理更新を行います。

【道路橋】

- ・ 県道南新井前橋線 上毛大橋 (前橋市)
- ・ 県道佐野行田線 渡良瀬大橋 (館林市)
- ・ 県道伊勢崎深谷線 上武大橋 (伊勢崎市)
- ・ 国道254号 金井橋 (甘楽町) ほか

【舗装】

- ・ 県道四ッ塚原之郷前橋線 前橋工区 (前橋市)
- ・ 県道下久屋渋川線 沼田工区 (沼田市)
- ・ 県道松井田中宿線 人見工区 (安中市)
- ・ 県道持柏木寄居線 北橋工区 (渋川市) ほか

【砂防関係施設】

- ・ 利根川支川 粕川 (第8堰堤) 砂防えん堤 (前橋市)
- ・ 片品川支川 白沢川 砂防えん堤 (沼田市)
- ・ 吾妻川支川 反下川 砂防えん堤 (中之条町) ほか

【県営住宅】

- ・ 広瀬第二県営住宅 (前橋市)
- ・ 中居県営住宅 (高崎市)
- ・ 分福県営住宅 (館林市) ほか

【河川構造物】

- ・ 一級河川 泉野川 北調節池排水機場 (板倉町)
- ・ 霧積ダム
常用洪水吐き (安中市)
- ・ 道平川ダム
表面取水ゲート (下仁田町)

ほか

【下水道施設】

- ・ 県央処理区 最初沈澱池設備 (玉村町)
- ・ 桐生処理区 汚泥ポンプ (桐生市)

ほか

【公園施設】

- ・ 敷島公園 水泳場ボイラー
- ・ 敷島公園 サッカーラグビー場音響設備

ほか

事業の効果



県道南新井前橋線 上毛大橋 橋梁補修

橋の老朽化や劣化にともなう損傷により、道路を安全に通行できなくなる危険性があります。



実施前

計画的な修繕により、橋の長寿命化を図り、老朽化や劣化を原因とする事故を防ぎます。



実施後(イメージ)

広瀬第二県営住宅 住戸改善

老朽化により、居住者の安全・安心な住環境に支障がでてきました。



実施前

改修工事により、安全・安心に利用できる施設になります。



実施後(イメージ)

(1) 行政が実施する維持管理

道路パトロールや河川巡視などの日常点検を実施し、社会資本の異常箇所の早期発見に努めます。



(2) 地域住民が主体となった維持管理

自治会や学校など、地域の道路や河川等の愛護活動を実施している皆さんの活動を支援し、地域活動の活性化を図ります。



(3) 民間の力を活用した維持管理

公共施設の管理に民間の資金とノウハウを活用し、県民サービスの向上を図るとともに、維持管理コストの縮減等に取り組みます。

【指定管理者制度の導入】

県が管理する施設について、県が指定した民間事業者等が施設の管理主体として、公共施設の管理を代行する制度です。



【Park-PFIの導入検討】

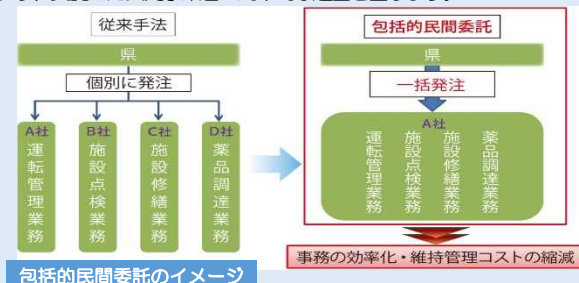
都市公園における新たなニーズに対応するため、従来の官民連携制度では困難であった、民間資金を活用した施設整備の実現に向け、「Park-PFI」の導入を検討します。



出典：国土交通省ホームページ

【包括的民間委託の導入】

施設の点検・修繕や運営管理などの業務を、包括的に委託することにより、受託した民間事業者が効率的な運営を図ります。



(4) 公営企業会計の適用

流域下水道事業においては、経営状況をより正確に把握しやすい公営企業会計を平成32年度から適用することにより安定的な県民サービスを提供します。

平成31年度 主要事業の概要

● 行政が実施する維持管理

道路・河川等の日常点検、道路・河川の除草や河川の堆積土除去等の年間を通じた適切な維持管理を適時適切に実施します。

● 地域住民が主体となった維持管理

河川除草等：自治会等河川草刈り作業委託事業により、自治会等338団体の除草を支援します。
道路清掃・除草：春・秋の道路愛護運動により、自治会等1,471団体の除草を支援します。

● 民間の力を活用した県管理施設の効率的な維持管理

指定管理者制度の実施：県立都市公園、ヘリポートで実施します。
(敷島公園・群馬の森・金山総合公園・観音山ファミリーパーク・多々良沼公園、群馬ヘリポート)

包括的民間委託の活用：施設の管理水準の向上、業務の効率化のため、4つの水質浄化センター（奥利根、県央、桐生、西邑楽）で包括的民間委託を活用します。

基本 目標 3

魅力

もっと、県土に魅力を

人口減少と高齢化が同時に進行する局面でも都市部から中山間地域に至るまで、誰もが買物や通院など生活に必要なサービスを楽しむ、安心して豊かな暮らしを持続できるよう、「まちのまとまり」の維持と、それらをつなぐ「多様な移動手段の確保」に取り組み、生活の質の高い魅力ある県土づくりを推進します。

政策 6 持続可能な地域づくり・まちづくり

施策 1 まちのまとまりとネットワークの形成 【予算額】 9,393,253 千円※

施策 2 観光ネットワークの構築 【予算額】 13,957,088 千円※

政策 7 多様な移動手段の確保

施策 1 鉄道・バスが運行されていない地域の移動手段の確保 【予算額】 99,672 千円※

施策 2 鉄道・バスが運行されている地域の移動手段の確保 【予算額】 2,154,670 千円※

政策 8 良好なまち並みと快適な住まいづくり

施策 1 地域の誇れる景観づくり 【予算額】 5,884,500 千円※

施策 2 快適な居住環境づくり 【予算額】 1,248,674 千円※

施策 3 安心して暮らせる住まいづくり 【予算額】 913,563 千円※

施策 4 長く大切に使う住まいづくり 【予算額】 203,910 千円※

政策 9 ハツ場ダム関連事業の促進

施策 1 生活再建等関連事業の促進 【予算額】 17,316,237 千円※

施策 2 ダム湖を活用した新たな魅力づくり 【予算額】 70,000 千円※

※施策ごとの予算のため重複する場合があります。

政策 6

持続可能な地域づくり・まちづくり

人口減少と高齢化が同時に進行する局面でも、都市部から中山間地域に至るまで、買物や通院など生活を支えるサービスが享受しやすい「まちのまとまり」を維持し、それらをつなぐ「多様な移動手段の確保」に取り組みます。

施策 1

まちのまとまりとネットワークの形成

【予算額】 9,393,253 千円

(1) まちのまとまりの維持

誰もが買物や通院などの生活に必要なサービスを楽しみやすく、安心して豊かな暮らしを維持できるよう、それぞれの区域で市町村と連携して「まちのまとまり」の維持に取り組んでいきます。

(2) 中心市街地の再活用（まちのにぎわいづくり）

中心市街地を再活用するため、誰もが容易にアクセスできる多様な移動手段を確保するための取組を推進し、人を呼び込み、にぎわいを創出する施策を、市町村と連携して中長期的に推進していきます。

中心市街地活性化

まちのにぎわいを創出するため、中心市街地の活性化に資する取組を支援します。



オープンカフェの事例（高崎市）



住宅の整備事例（太田市）



オフィスや商業施設等の整備事例（太田市）

(3) 歩いて暮らせるまちづくり

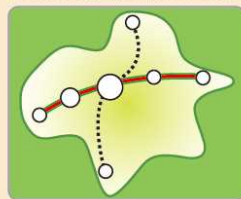
歩きたくなるまちづくりの実現に向け、「まちのまとまり」の維持、まちのにぎわいの創出、自動車以外の多様な移動手段の確保に取り組みます。

(4) 公共交通を軸としたまちづくり

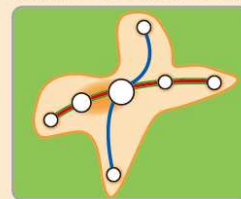
鉄道駅や基幹的なバス路線の沿線に公共施設等の立地を誘致することで、公共交通の利用を促進させるとともに、利便性の高いまちのまとまりの形成につながるように、市町村と連携して取り組みます。

公共交通を軸としたまちづくり

広範囲に拡散したまち



拠点や公共交通を軸としたまち



凡例

○ 拠点

○ 拠点以外の駅等

— 公共交通など

● 都市機能の集積
(濃淡は集積の度合いを示す。)

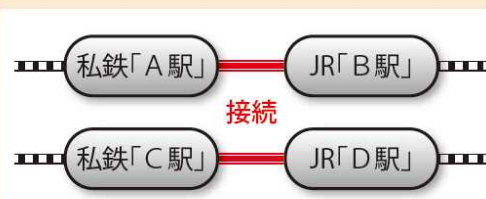
(5) 「まちのまとまり」をつなぐ公共交通

「まちのまとまり」を公共交通でつなぎ、公共交通を含めた多様な移動手段が選択できる社会の実現に取り組みます。

駅間接続



駅間接続の事例（福井鉄道）



駅間接続のイメージ図

広域的な基幹バス



出典：バスラマインターナショナルNo.154より転載

(6) 「まちのまとまり」をつなぐ道路

円滑な移動を確保するため、「まちのまとまり」や地域間を結ぶ道路ネットワークの整備・強化に取り組みます。

●まちのまとまりの維持

【市町村によるアクションプログラム策定支援】

「まちのまとまり」を維持するため、市町村による「アクションプログラム」の策定を支援します。平成31年度は、高崎市、渋川市、沼田市、安中市の4市で策定する予定です。

●中心市街地の再活用（まちのにぎわいづくり）

【まちなか居住再生等支援】

まちのにぎわいを創出するため、まちなか居住の再生を促進する優良な住宅の整備費の一部を補助します。

- ・JR前橋駅北口地区（前橋市）、本町14地区（前橋市）、高崎駅東口第九地区（高崎市）

●公共交通を軸としたまちづくり

【立地適正化計画の策定支援】

利便性の高いまちのまとまりの形成につながるように、市町村による「立地適正化計画」の策定を支援します。平成31年度は、高崎市、桐生市、館林市、渋川市、藤岡市の5市で策定する予定です。

●「まちのまとまり」をつなぐ公共交通

①公共交通の利用促進（モビリティ・マネジメント）

- ・県庁、前橋市役所職員を対象に、自動車から公共交通への転換を促す「モビリティ・マネジメント」を実施します。
- ・小学生を対象としたバスの乗り方教室の開催、新高校生に向けたバスの通学利用を促進します。

②新たな公共交通軸の形成（東毛広域幹線道路BRT）

- ・新たな公共交通軸となる東毛広域幹線道路でのBRT導入に向けて、平成31年度は、運行計画や導入車両等の検討を行います。

BRTのイメージ



寺尾藤岡線の現状



敷島公園大師線の現状



●「まちのまとまり」をつなぐ道路

渋滞対策や快適な歩行空間を確保するため、道路の拡幅を行います。

- ・県道前橋長瀬線 綿貫工区 現道拡幅（高崎市）
- ・（都）前橋長瀬線 高崎工区 現道拡幅（高崎市）

高崎市と藤岡市を結び、渋滞対策や円滑な移動を確保するため、道路整備を推進します。

- ・県道寺尾藤岡線 バイパス整備（高崎市、藤岡市）

渋滞対策や快適な歩行空間を確保するため、歩道の設置や道路の拡幅を行います。

- ・（都）敷島公園大師線 2期工区 現道拡幅（前橋市）

農地までの移動時間や農産物出荷時間の短縮のため、農道をつくります。

- ・榛名南麓2期地区（フルーツライン） 農道事業（高崎市）

今年度のトピックス

県道桐生伊勢崎線 交差点改良（伊勢崎市）
 国道406号 交差点改良（高崎市）
 県道前橋大間々桐生線 交差点改良（桐生市）
 （都）笛木通り線 現道拡幅（高崎市）

H31年度完成予定
 H31年度完成予定
 H31年度完成予定
 H31年度完成予定

(1) 公共交通による観光ネットワークの構築

県内外の観光客にとって利便性が高い公共交通による観光ネットワークの構築と、乗換え案内等の情報提供を通じ、観光利用による公共交通の利用者確保と観光振興を図ります。



(2) 道路整備による観光ネットワークの構築

交流人口の増加による地域の活性化を図るため、主要観光地間を連携させる広域的な周遊観光ルートの整備や、観光地へのアクセス向上に向けた道路整備を推進します。

(3) 外国人観光客の受入環境の整備

急増する訪日外国人観光客の誘客を図るため、情報提供の多言語化など、外国人観光客の受入環境の整備を推進します。



道路案内標識の英語表記化の例

平成31年度 主要事業の概要

●道路整備による観光ネットワークの構築

世界遺産「荒船風穴」へのアクセス性向上等を図るため、道路を拡幅したり、待避所をつくります。

- ・ 県道下仁田浅科線 現道拡幅（下仁田町）

ラムサール条約湿地「芳ヶ平湿地群」へのアクセス性を向上させるため、道路の拡幅を行います。

- ・ 県道中之条草津線 現道拡幅（中之条町）

全国有数の温泉地である「草津温泉」へのアクセス性を向上させるために登坂車線を設置します。

- ・ 国道292号（草津町） 登坂車線整備

2020年4月～6月に開催される「群馬 destinations キャンペーン」に向けて、受け入れ体制整備の一環として、観光案内標識（道路標識）の充実を図ります。

- ・ DC関連案内標識設置



県道下仁田浅科線 完成区間



完成前



完成後

国道292号 完成区間

今年度のトピックス

- 県道下仁田浅科線 現道拡幅（下仁田町） H31年度完成予定
- 国道292号 登坂車線整備（草津町） H31年度完成予定
- DC関連案内標識設置 H31年度着手完成予定

政策 7

多様な移動手段の確保

人口減少が本格化し、今後も人口構成の大きな変化が見込まれる中でも、誰もが「『自動車以外の移動手段』も選択できる社会」の実現に向けて、多様な移動手段の確保に努めます。

施策 1

鉄道・バスが運行されていない地域の移動手段の確保 【予算額】 99,672千円

(1) 地域に適した移動手段の導入支援

県内外における事例調査、市町村への情報提供、実証実験などを通じた市町村へのコミュニティバスやデマンドバス・タクシーなどの導入支援を行います。また、どのような地域にどのような移動手段が適しているかの分析を行い、市町村とともに地域に適した移動手段の確保に取り組みます。

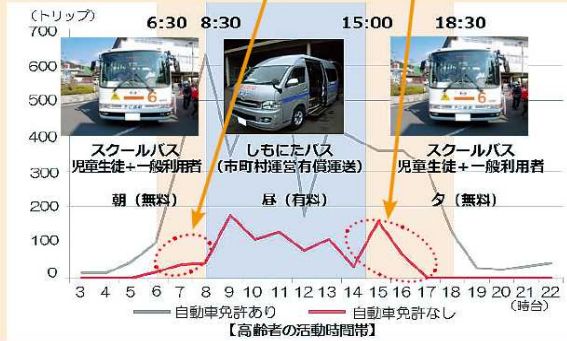
多様な移動手段の例

輸送形態を含め、多様な選択肢の中から地域に適した移動手段の導入や運行方法の見直しなどの支援に取り組みます。



デマンドバス・タクシーのイメージ

混乗化により免許を持たない高齢者の活動（移動）時間帯が増加



スクールバスへの混乗と市町村運営有償輸送を組み合わせた事例（下仁田町）

(2) 新たな移動手段の導入検討

全国で実証実験が進められている「新たな移動手段を確保するための取組」について、先進事例の調査、タクシー会社や配車アプリ開発会社からの情報収集、市町村への情報提供、実証実験の支援などを通じた市町村の新たな移動手段の導入の取組を支援します。

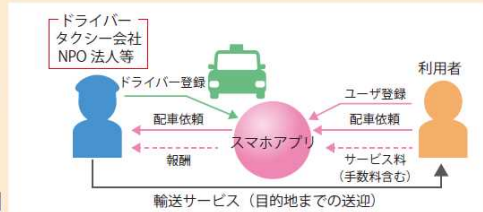
検討例

① タクシーが運行している地域

タクシーを利用したマッチングサービスによる相乗り促進に取り組みます。

② タクシーが運行していない地域

NPO法人等が運送を行う自家用有償旅客輸送を活用した相乗りサービスの促進に取り組みます。



スマホアプリを活用した相乗りサービスのイメージ

(3) 自動運転技術の活用

国や県内における実用化に向けた取組を注視しながら、関係者と必要な連携を図り、自動運転技術の導入に向けた検討を行います。

自動運転技術の検討



県内における自動運転技術の取組（群馬大学）

平成31年度

主要事業の概要

● 新たな移動手段の導入検討

【住民互助による移動手段（相乗りなど）の導入検討】

住民互助による移動手段（相乗りなど）の本県での導入可能性を検討し、実証実験を通じて市町村での導入を支援します。

（H31：モデル地区での実証実験を実施）

タクシーの相乗りによる実証実験 （前橋市城南地区）



施策2

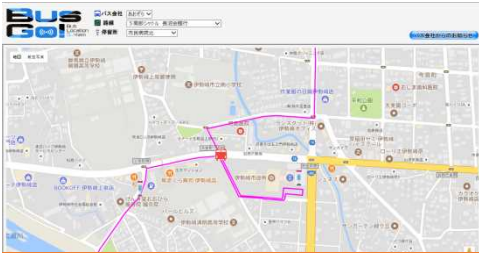
鉄道・バスが運行されている地域の移動手段の確保

【予算額】2,154,670千円

(1) バス

① ICTを活用したバスの利便性向上

より利用しやすい公共交通への改善に向けた取組を支援します。



バスロケーションシステムのイメージ



交通系ICカードのイメージ



バス路線のかんたん検索のイメージ

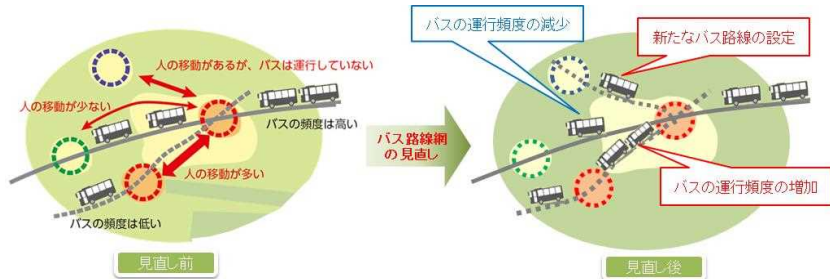
出典：本画像は、Googleマップ から転載

②バスの定時性の確保

基幹となるバス路線を中心に、バスの定時性を確保するため、国・県・市町村の各道路管理者や警察と連携を図り、交差点の右折レーン設置などの交通円滑化対策に取り組みます。

③パーソントリップ調査結果等を活用したバス路線網の見直し

持続可能な公共交通ネットワークの形成を図るため、バス路線網等の見直しを支援します。



バス路線網の見直しのイメージ

④路線バスの運行支援

学生や高齢者などの交通弱者の日常生活に欠かすことのできない地域の移動手段を確保するため、路線バスの運行支援やバス運転手確保対策、バス停留所等の待合環境の改善やバリアフリー化などの取組を行います。

(2) 鉄道

①駅の利便性向上

鉄道沿線で鉄道利用が少ない地域については、利用者の拡大を図るため、駅周辺でのパークアンドライド駐車場の整備を推進します。また、市町村や交通事業者と連携し、鉄道駅へのアクセス向上を図るため、アクセス道路や駅前広場等の整備を推進します。



整備前



整備後



パークアンドライド駐車場のイメージ

②乗換えによる不便さの改善

需要予測などを踏まえて、相互乗入れや同一ホームでの乗換え等による乗換抵抗の改善に向け、市町村・交通事業者とともに、引き続き検討していきます。

③中小私鉄への支援

広域的な移動を支える鉄道網を維持するため、中小私鉄3線などの鉄道事業者の運営の安定化と安全な運行の支援に取り組みます。

(3) 自転車

①自転車の円滑な利用環境の整備

身近な移動手段として重要な役割を担う自転車について、安全で快適な利用環境を確保するため、自転車の走行位置を示す路面表示などにより、自転車通行空間の整備を推進します。

●バス

【交通系ICカードの導入支援】

県内路線バスでも、スイカやパスモなどの全国相互利用可能な交通系ICカードが使えるよう、導入支援に取り組みます。

【交通円滑化対策】

バスの定時性を確保するため、交差点の右折レーン設置などの交通円滑化対策に取り組みます。

- ・ 県道前橋高崎線 交差点改良（高崎市）

【バスの利便性向上】

バス運行の効率化や利便性向上のため、PT調査結果を活用したバス路線網の見直しや、バスロケーションシステムの試験導入を行います。

【バスの運転手確保】

路線バス乗務員の労働条件や実情等に係る課題を分析し、バス事業者に対し労働力確保に向けた指導及び支援に取り組みます。

●鉄道

【鉄道の利便性向上を図る】

駅へのアクセス道路整備や、乗換えをしやすいするため、路線ごとに「鉄道利用促進アクションプログラム」を策定します。平成31年度は、JR上越線、JR信越本線、上信線、わたらせ渓谷線の4路線において策定します。

【中小私鉄への支援】

- ・ 上毛線活性化・再生対策 踏切保安装置の更新等
- ・ 上信線活性化・再生対策 車両更新等
- ・ わたらせ渓谷線活性化・再生対策 PCマクラギ化等

【駅前広場の整備】

自動車と歩行者が混在している新桐生駅前について、利用者の安全を確保し、駅前を魅力ある空間とするため、駅前広場を推進します。
 ・（都）本町線 駅前広場整備（桐生市）

●自転車

【安全で快適な自転車利用環境の整備】

安全で快適な利用環境を確保するため、自転車通行空間を整備します。

- ・（都）本町線 自転車通行帯整備（桐生市）

今年度のトピックス

- 前橋赤十字病院の関係路線4社19路線でバスロケーションシステムを試験導入 H31年度試験導入
- 県内路線バスに交通系ICカードを導入 H32年春導入予定

バスロケーションシステムって何？

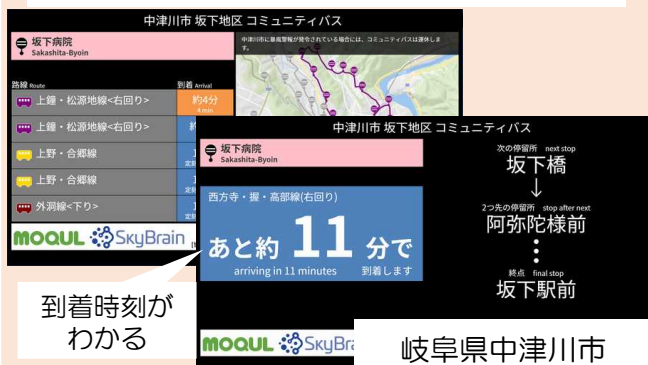


バスロケーションシステム

GPS等を用いてバスの位置情報を収集し、バス停の表示板や携帯電話、パソコンに情報提供するシステムです。

これにより、渋滞や雨などの理由によりバスが遅れているときのバス待ちのイライラを解消できます。

【バスロケーションシステムの表示イメージ】



到着時刻がわかる

岐阜県中津川市

【Googleマップでの検索イメージ】



バス遅延に対応した経路検索が可能

スマートフォンなどで、路線バスの現在地や到着時刻がわかるようになります。

政策 8

良好なまち並みと快適な住まいづくり

暮らしにゆとりと豊かさをもたらす、良好なまち並みや景観形成と、快適な居住環境を維持・創出するとともに、誰もが安心して住み続けられる住まいづくりを推進します。

施策 1

地域の誇れる景観づくり

【予算額】 5,884,500 千円

(1) 景観まちづくりの支援

本県の有する個性豊かで美しい景観を活かし、県民の郷土に対する誇りをはぐくむとともに、本県の魅力を広く発信するため、市町村の「景観まちづくり」の取組を支援します。

景観行政団体*への移行支援

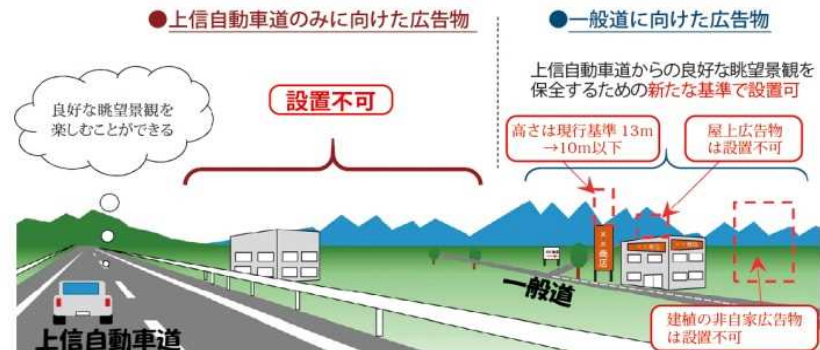
地域の特性を活かした景観づくりを推進するため、市町村が「景観計画」を策定し、きめ細かな規制誘導方を展開できるよう、市町村の景観行政団体への移行を支援します。



景観行政団体の取組事例 「草津温泉湯畑」(草津町)

(2) 地域の特性に応じた屋外広告物の規制誘導

観光ルート等における良好な景観形成を図り、観光県ぐんまの魅力を高めるため、県内の主要観光ルートや高速道路等のIC周辺道路の沿線地域等において、地域の特性に応じた屋外広告物の規制誘導を推進します。



(3) 地域の風景や景観を創る公共事業の推進

世界遺産周辺など歴史的価値の高い地域や中心市街地・駅前広場など地域にとってシンボルとなる場所をはじめ、県内の各地域において、周辺の風景やまち並みに調和した質の高い公共空間の創出を図る「ぐんま景観形成モデル事業」を実施し、「ぐんまの魅力を向上させる社会資本整備」を推進します。

にぎわいを創出する道づくり

中心市街地や駅前広場など、地域特性を踏まえた景観に配慮した道づくりなど、にぎわいを創出する社会資本整備を推進します。



中央通り線イメージ図 (館林市)



上州富岡駅周辺整備 (富岡市)



おもてなし舗装*の整備 (富岡市)

●地域の特性に応じた屋外広告物の規制誘導

上信自動車道における良好な景観形成を図り、観光県ぐんまの魅力を高めるため、上信自動車道沿線を「景観誘導地域」に指定します。

現在、川島バイパス・祖母島～箱島バイパス・吾妻西バイパス・ハッ場バイパス及び長野原バイパスが指定されており、H31は吾妻東バイパス及び吾妻東バイパス2期について、道路区域決定後、景観誘導地域に追加します。

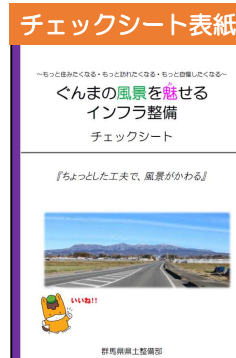
- ・上信自動車道 景観誘導地域の追加指定

また、上信越自動車道（仮称）甘楽スマートインターチェンジ周辺道路について、新たに「景観誘導地域」に指定する手続きを行います。

●地域の風景や景観を創る公共事業の推進

周辺の風景やまちなみに調和した質の高い公共空間の創出を図るため、「ぐんまの風景を魅せるインフラ整備」チェックシートに基づき、モデル事業及びスキルアップチャレンジ事業を実施します。

- ・モデル事業数：40事業（平成31年度末現在）



富岡製糸場周辺の無電柱化



整備前

整備後

電柱がなくなって、スッキリ

【無電柱化】

市街地の良好な都市景観や住環境を確保するために、電線類を地中化します。

- ・県道桐生田沼線 無電柱化（桐生市）
- ・県道高崎渋川線 無電柱化（高崎市）
- ・（都）中央通り線 無電柱化（館林市）

世界遺産周辺の地域のにぎわいや景観形成を確保するために、電線類を地中化します。

- ・県道富岡神流線 無電柱化（富岡市）

【地域の風景をつくる川づくり】

多様な河川景観を保全・創出するために、河川整備を行います。

- ・一級河川 利根川 かわまちづくり（みなかみ町）
- ・一級河川 寺沢川 河川改修（前橋市）

利根川のかわまちづくり



【にぎわいを創出する道づくり】

商店街の活性化など、にぎわいの創出に配慮した歩道整備を行います。

- ・（都）中央通り線（館林市）
- ・県道富岡神流線 仲町通り（富岡市）

おもてなし舗装



今年度のトピックス

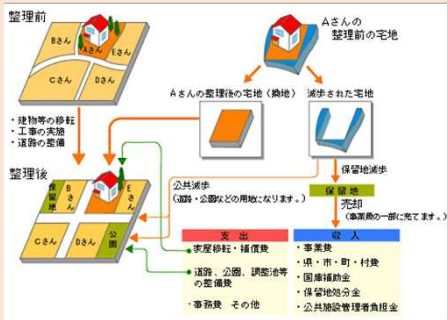
上信自動車道 景観誘導地域 H31年度追加指定予定
 （吾妻東バイパス及び吾妻東バイパス2期の道路区域決定後）
 県道高崎渋川線 無電柱化（高崎市） H31年度完成予定

(1) 快適な生活空間の整備

市街地の秩序ある整備を図り、快適な居住環境を形成するため、土地区画整理事業に取り組むとともに、県民の交流、憩いの場を提供するため、都市公園の整備や運営管理を行います。

【土地区画整理事業】

都市計画区域内の土地について、道路・公園等の公共施設を整備し、健全な市街地の形成と快適な居住環境の整備を推進します。



土地区画整理事業のイメージ



土地区画整理事業(高崎市)

【都市公園】

県民に憩いとレクリエーションの場を提供するため、県立都市公園の整備と適正な運営管理を行います。

また、誰でも安全で安心して公園を利用できるように、公園施設や植木の適正な管理とともに、公園施設のバリアフリー化を推進します。



敷島公園(前橋市)



観音山ファミリーパーク(高崎市)



金山総合公園(太田市)

(2) まちのにぎわい創出

誰もが、自然と外出したくなるような、にぎわいと活気のあるまちづくりを推進するため、中心市街地活性化の支援や花と緑で潤いのあるまちづくりに取り組みます。

【まちづくりパートナーネットワーク講座】

まちづくりの基礎知識や技法等を習得した「まちづくりリーダー」を育成し、住民主体のまちづくりの推進を図ります。



講座の状況



まちづくりワークショップの状況

【花と緑のぐんまづくり】

ふるさと「ぐんま」を花と緑あふれる、活力ある美しい地域にし、あわせて、まちなかの活性化を図るため、県民や市町村等と協力・連携し、「花と緑のぐんまづくり」の取組を推進します。



ふるさとキラキラフェスティバル



花と緑のクリーン作戦の実施状況

●快適な生活空間の整備

【市街地整備の促進】

市街地整備を促進させるために、土地区画整理組合が施行する区画道路整備や都市計画道路の整備を支援します。

- ・尾島東部地区（太田市）

市街化整備を促進させるために、市町村が施行する土地区画整理事業における県管理道路の整備を支援します。

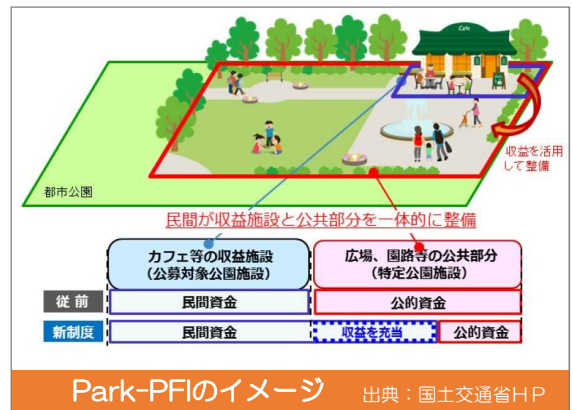
- ・伊勢崎駅周辺第一地区（伊勢崎市）
- ・中央第二地区（高崎市）
- ・沼田市周辺市街地地区（沼田市）

【都市公園】

都市公園における新たなニーズに対応するため、従来の官民連携制度では困難であった、民間資金等を活用した施設整備の実現に向け、「Park-PFI（公募設置管理制度）」の導入を引き続き進めます。

以下の都市公園については、昨年度に事業予定者を決定したので、今年度に協定を締結し、施設の供用開始を目指します。

- ・敷島公園（前橋市）



事業効果の例



敷島公園 Park-PFIの導入

～導入前～

（利用者ニーズ）
公園内にゆっくり座ってくつろげる場所が欲しい、飲食できる場所が欲しい



～導入後～

民間活力を導入し、よりサービスレベルの高い利用者ニーズに合ったくつろぎの場を整備することで、敷島公園の魅力が向上し、新たな賑わいが創出されます。



※応募提案時イメージパース

(1) 居住ニーズを踏まえた県営住宅等のリニューアル

若者世代・子育て世代、高齢者、障害者、低所得者世帯など、すべての県民の住まいに対する不安が解消され、誰もが安心して暮らせるよう、県営住宅のリニューアルや入居支援を行います。
また、県営住宅を活用した母子世帯向けシェアハウス等の導入に向けた検討を行います。

県営住宅等のリニューアル

県営住宅の建て替えや住宅改善時にあわせて、子育て世代や高齢者、障害者に適した住戸の改善を推進します。



広瀬第二県営住宅（前橋市）



広瀬第二県営住宅（前橋市）



(2) 群馬あんしん賃貸ネット

高齢者や障害者をはじめとした住宅確保要配慮者が入居を拒まれないよう、群馬あんしん賃貸ネット等により民間賃貸住宅に関する情報提供に取り組みます。

群馬あんしん賃貸ネット
(群馬県居住支援協議会ホームページより)



(3) 地域包括ケアシステム構築の普及啓発

超高齢社会の到来を見据え、高齢者が自立して、安心・快適で健康的な生活ができるよう、福祉部局や市町村とも連携し、地域包括ケアシステム構築の普及啓発に努めます。

公共用地への福祉施設等の整備・運営の事例
(金井淵県営住宅 高崎市)



平成31年度 主要事業の概要

● 居住ニーズを踏まえた県営住宅等のリニューアル

誰もが安心して暮らせるように、県営住宅のリニューアルを推進します。

- ・ 広瀬第二県営住宅住戸改善事業（前橋市）
- ・ 中居県営住宅住戸改善事業（高崎市）



広瀬第二県営住宅A棟

今年度のトピックス

- 広瀬第二県営住宅A棟 H31年度完成予定
- 広瀬第二県営住宅H棟 H31年度着手予定
- 中居県営住宅E棟 H31年度着手予定

事業効果の例



改善前

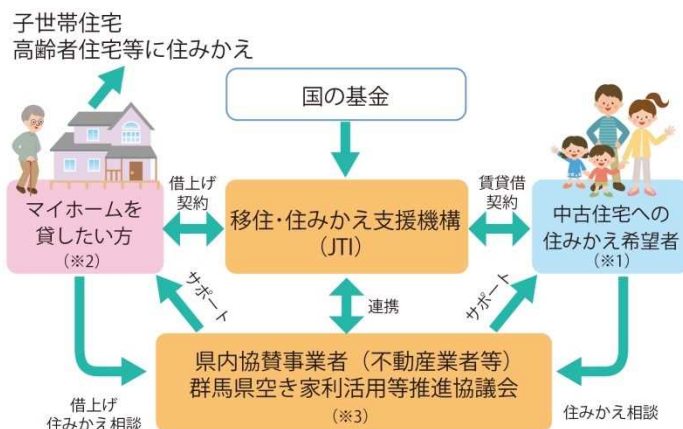
- ・ エレベーターが無く、住戸内の段差が大きいなど高齢者対応が不十分
- ・ 住棟の老朽化
- ・ 全室単一間取りで居住ニーズへ対応できていない。

改善後

- ・ エレベーター設置等によりバリアフリー化が推進されます。
- ・ 断熱、省エネ化により居住環境改善されます。
- ・ 間取り変更により多様な世帯へ対応できます。

(1) 空き家対策の総合的な推進

放置することで、地域の治安や安全性の低下、公衆衛生の悪化、景観の阻害等が懸念される空き家を抑制するため、空き家の除去とともに、県内外からの移住者の新たな生活や活動の拠点として、空き家の利活用を促進します。



- ※1 子育て世帯・IUJターン希望者
- ※2 50歳以上の方または空き家を相続した方など
- ※3 総合窓口：ぐんま住まいの相談センター
窓 口：県・市町村

(2) 既存住宅ストックの活用

既存住宅については、適正に維持管理するとともに、県民が質の高い住宅に長く住むことができるよう、居住ニーズに合わせたリフォームを支援します。

住宅リフォームの促進

既存住宅のリフォーム支援に取り組むとともに「群馬安心リフォーム事業者登録制度」により、安心してリフォーム事業者を選択できる環境づくりを推進します。



住宅リフォームの事例（「ぐんまの家」設計・建設コンクール リフォーム住宅賞受賞作品より）

平成31年度

主要事業の概要

● 空き家対策の総合的な推進

- ・ 市町村空き家対策支援

空き家対策の推進のため、所有者不明の空き家等解体の支援、空き家対策のセミナーを開催します。

- ・ 県民への意識啓発

県民向けの空き家対策セミナーを開催し、ぐんま住まいの相談センターによる、空き家相談等への対応や、よりよい住まいづくりに役立つ情報の発信を行います。

特定空き家等の略式代執行



所有者不明特定空き家等解体支援

空き家等対策計画に基づき、所有者が不明な空き家を略式代執行で解体する市町村に対し、県が費用の一部を補助し、空き家対策を後押しします。

効果

債権回収が困難な略式代執行の市町村負担を軽減します。危険な空き家への対策が進み、地域の住環境が改善します。

政策 9

ハッ場ダム関連事業の促進

ハッ場ダムの建設により、住み慣れた土地から代替地などに移転されたすべての方々が安心して暮らせる地域づくり、ダム湖を活用した新たな魅力づくりを町・国と一体となって取り組みます。

施策 1

生活再建等関連事業の促進

【予算額】 17,316,237 千円

ハッ場ダム建設に関係する地元の方々が安心して豊かに暮らせるように、引き続き、町道、下水道など基盤となる施設や地域振興施設等の整備を、着実に進めていきます。



平成31年度

主要事業の概要

●生活再建等関連事業の促進

生活再建事業促進のために下記の施設整備を行います。

- ・ 地域振興施設整備（川原湯・横壁）
- ・ 県道川原畑大戸線（大柏木トンネル）
- ・ 川原畑スポーツ公園整備
- ・ (仮称)町営水没文化財保存センター

今年度のトピックス

川原湯地域振興施設	H31年度完成予定
横壁地域振興施設(屋内運動場)	H31年度完成予定
川原畑スポーツ公園	H31年度完成予定

横壁地域振興施設整備（屋内運動場）



(仮称)町営水没文化財保存センター



施策 2

ダム湖を活用した新たな魅力づくり

【予算額】 70,000 千円

ハッ場ダム周辺に訪れた観光客に快適にゆっくりと楽しんでもらい、ハッ場地域の活性化や、吾妻地域全体の交流人口の増加などを図るため、ハッ場ダム周辺地域の周遊ネットワーク化を図り、ダム湖やダム湖周辺の各地区の地域振興施設が連携した魅力ある地域づくりを行います。また、ダム湖周辺では、地元の方々と行政が協働で取り組む「やんば一万本桜プロジェクト」なども、引き続き、進めていきます。

平成31年度

主要事業の概要

●水源地域活性化支援事業

ハッ場ダムの新たな魅力づくりのため、ダム湖周辺に一万本の桜を植えます。
H31年度までに約3,000本の桜を植える予定です。

- ・ やんば一万本桜プロジェクト

やんば一万本桜プロジェクト



基本
目標 4

環境

もっと、良好な環境を

環境への負荷が少なく環境の質が高い、豊かで持続的に発展する環境県群馬を目指すとともに、将来の県民に良好な環境を引き継ぐため「生活環境・自然環境の保全」や「低炭素・循環型社会づくり」を推進します。

政策10

生活環境・自然環境の保全

施策1

生活環境の保全

【予算額】1,513,140千円※

施策2

自然環境の保全

【予算額】4,438,000千円※

政策11

低炭素・循環型社会づくり

施策1

地球温暖化対策

【予算額】2,854,670千円※

施策2

循環型社会づくり

※施策ごとの予算のため重複する場合があります。

政策10

生活環境・自然環境の保全

将来の県民に良好な環境を引き継ぐため、暮らしを支える生活環境やふるさと群馬の素晴らしい自然環境の保全に取り組みます。

施策1

生活環境の保全

【予算額】1,513,140千円

(1) 地域の特性を踏まえた污水人口普及率の向上

公共用水域の水質を保全し、県民の生活環境を守り、首都圏に良質な水資源を供給するため、県と市町村の連携により、污水处理施設整備を推進し、污水处理人口普及率の向上を目指します。



【下水道と合併処理浄化槽のベストミックスによる効率的・効果的な整備の推進】

下水道や農業集落排水による整備では非効率となった区域を合併処理浄化槽による整備区域に変更することで、污水处理施設の最適な配置計画への見直しを行い、効率的・効果的な污水处理施設整備を推進します。



【合併処理浄化槽への転換促進】

市町村主導で計画的な整備が可能な市町村設置型合併処理浄化槽の整備を促進します。

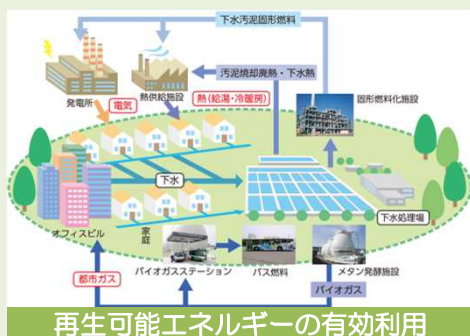


【市町村への支援】

污水处理人口普及率の向上のため、市町村と県で設置している「群馬県污水处理促進協議会」において、整備の効率化、コスト縮減などを提案、検討するとともに、市町村の施設整備に対する財政的支援を継続し、更なる污水处理施設整備の促進を図ります。

【再生可能エネルギーの有効活用】

現在、下水処理場から排出される汚泥はセメント原料に100%再利用されていますが、下水道は処理水や熱等の多くの利用可能な資源・エネルギーを有しています。こうした資源・エネルギーの有効活用が求められる中、下水道を資源ととらえ積極的に活用を図っていく取組を推進します。



【施設の統廃合による污水处理施設の維持管理費の負担軽減】

市町村が管理する老朽化した農業集落排水施設やコミュニティプラント等の污水处理施設の流域下水道施設等への接続を検討し、污水处理施設の維持管理費の負担軽減を図ります。



●地域の特性を踏まえた污水人口普及率の向上

【幹線整備事業の促進】

污水人口普及率の向上のため、東毛流域下水道（佐波処理区）において、伊勢崎幹線管渠を延伸し、延伸先処理分区の下水道整備を促進します。

今年度は伊勢崎市長沼町から伊勢崎市山王町の管渠築造を進める予定です。

- ・伊勢崎幹線管渠整備（伊勢崎市）

【合併処理浄化槽への転換促進について】

污水処理施設の最適な配置を行い、効率的・効果的な污水処理を推進するため、合併処理浄化槽へ転換が進むよう支援を行っています。

- ・浄化槽設置整備事業（個人設置型）及び浄化槽設置市町村整備推進事業（市町村設置型）
浄化槽を設置する個人及び市町村を支援します。
- ・浄化槽エコ補助金
下水道整備区域外での個人の浄化槽設置整備を支援します。

伊勢崎幹線管渠 施工状況



藤岡市浄化槽 施工状況



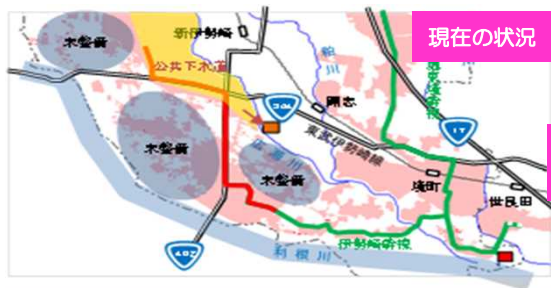
事業の効果



伊勢崎幹線管渠：流域下水道幹線管渠の延伸による普及促進

～整備前～

- ・下水道が未整備の区域があり、適切に污水を処理できていません。
- ・污水処理施設への流下にポンプを使用しているため、コストがかかっています。



～整備後～

- ・幹線が整備されることで、下水道整備区域が広がり、污水を適切に処理できるようになります。
- ・下水道を平塚水質浄化センターへと接続することで、流下形態が自然流下へと移行され、コストが削減されます。



- ・伊勢崎幹線に接続可能な区域面積が広がります。417.7ha→2,002.5ha（H39）
- ・下水道の普及率が向上することにより水辺環境が改善されます。

(1) グリーンインフラの概念を用いた社会資本総合整備の推進

自然環境の保全・再生・創出・管理、そして活用による魅力と潤いのある地域づくりを推進します。

①多自然川づくりの推進

河川が本来有している生物の生息・生育環境の保全や再生に配慮するとともに、地域の暮らしや文化とも調和した川づくりを推進します。



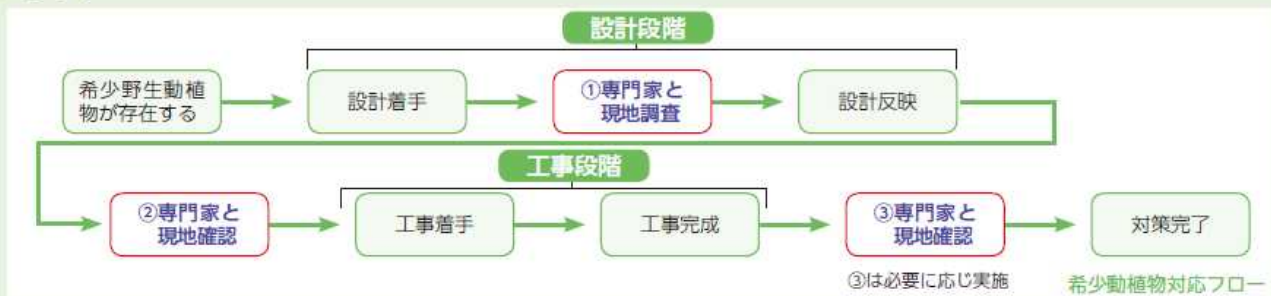
多自然川づくりの例

②希少野生動植物の保護対策

計画・設計の段階から希少野生動植物の有無を確認し、希少野生動植物に配慮した整備を行います。

希少野生動植物に配慮した河川改修

希少野生動植物の生息・育成・繁殖する場の再生など自然環境の保全・創出を図る河川改修を行います。特に計画・設計策定段階から希少野生動植物の有無を確認し、希少野生動植物に配慮した整備を行います。



③自然再生に向けた取組

県立多々良沼公園では多様な生態系の保全・復元と美しい景観を創出することを目的に、地域住民やNPO、学識経験者等と協力し、自然再生に向けた取組を積極的に進めています。

また、河川内における魚の遡上の妨げとなる落差を解消し、魚類をはじめ生物が成育しやすい環境に改善します。

多々良沼公園の取組



地域住民の活動



白鳥飛来状況

生物が成育しやすい河川環境の改善



魚道（押野川 みなかみ町）

(2) 鳥獣害対策

野生鳥獣による農林業への被害や、人的被害など住民の生活環境への鳥獣被害を減少させるため、イノシシなどの通り道や隠れ場所をなくす対策として河川内の伐木などを実施します。

鳥獣対策伐木



実施前

河川内伐木（発知川 沼田市）



実施後

●グリーンインフラの概念を用いた社会資本総合整備の推進

【多自然型川づくり】

浸水対策の河川改修に合わせ、護岸の勾配を緩くし、瀬や淵を保持することで、生物の生息環境を保持します。

- ・一級河川 男井戸川 河川改修（伊勢崎市）

【希少動植物の保護対策】

浸水対策の河川改修に際しては、河川内の希少種植物について移植等の保護を行います。

- ・一級河川 谷田川 堤防強化（板倉町）

【自然再生に向けた取組】

多様な生態系の保全・復元と美しい景観を創出するため、河床低下の進行により露岩した河床を、砂礫河原に復元します。

- ・一級河川 碓氷川 河床低下対策（安中市）



男井戸川（伊勢崎市） 施工状況

●鳥獣害対策

鳥獣害の被害軽減に向けて、河川内伐木を実施します。

- ・一級河川 荒砥川（前橋市）



碓氷川（安中市） 施工状況



実施前

荒砥川（前橋市） 鳥獣害対策施工状況



実施後

「多自然型川づくり」って何？



河川の生態系や風景を保全します！

瀬や淵などのみお筋は水生生物の生息に密接に関わっています。

これらを保全した河川整備を行うことで、生物の生息・生育環境や風景の保全・再生を行います。



瀬や淵を保全した河川整備（神流川 神流町）

河川に親しめる河川環境を整備します！

身近な自然環境である河川に気軽にふれられるように、いつでも川辺に降りられるように護岸の勾配を緩くしたり、階段などを整備することで、魅力的な水辺空間を創出します。



緩傾斜護岸（石田川 太田市）



階段工（三波川 藤岡市）

政策11

低炭素・循環型社会づくり

生活の豊かさの実感と温室効果ガスの削減が両立する低炭素社会の実現、廃棄物の適正処理と資源の循環が確立した循環型社会の構築に向け、環境整備を進めます。

施策1

地球温暖化対策

【予算額】 2,854,670千円

(1) 低炭素まちづくりの促進

二酸化炭素の発生を抑制するため、自動車利用から公共交通や自転車などの移手段への転換、施設の省エネルギー化、「ぐんま“まちづくり”ビジョン」を踏まえたまちのまとまりづくりと、それらを結ぶ公共交通ネットワークの形成などの「低炭素まちづくり」を市町村と連携して推進します。

①自動車利用に起因する温室効果ガス発生抑制

自動車利用に起因する二酸化炭素の発生を抑制するため、渋滞の緩和や移動時間の短縮を図るとともに、自動車から公共交通や自転車への移手段の転換を促します。

②クリーンエネルギーの取組

道路証明のLED化や住宅の省エネルギー化、既存インフラを利用した発電等による再生可能エネルギーの活用を推進します。

低炭素まちづくりイメージ図



LED道路照明



平成31年度

主要事業の概要

●低炭素まちづくりの促進

【自動車利用に起因する温室効果ガス発生抑制】

自転車の活用による環境への負荷の低減、県民の健康の増進等を図るため、群馬県自転車活用推進計画で定めた自転車ネットワーク計画において、自転車道、自転車専用通行帯、矢羽根型路面表示による自転車通行空間の整備を推進します。

- ・ (主) 藤岡本庄線線 (藤岡市)
- ・ (主) 伊勢崎大胡線 (伊勢崎市)



(主) 高崎神流秩父線 矢羽型路面標示整備状況



(主) 高崎渋川線 矢羽型路面標示整備状況

(1) 建設副産物のリサイクル促進

環境負荷の少ない循環型社会を構築するため、建設工事における建設発生土の有効利用及び発生抑制に引き続き取り組めます。

【建設発生土の有効活用】

建設発生土の工事間流用を円滑にし、更なる有効利用を図るため「建設発生土ストックヤード」の整備、運営を推進するとともに、官民一体となった相互有効利用を促進します。

【建設発生土の発生抑制】

建設発生土の発生抑制と建設副産物の有効利用を目的とした「再生半水石膏による路床改良」を推進します。

建設発生土ストックヤードの整備による
残土の有効活用の促進



発生土の有効利用のイメージ



ストックヤード



●建設発生土の有効活用

【群馬県建設発生土民間受入地の公募】

建設発生土の処分地拡大と適正処理の推進を図ることを目的として、建設発生土の民間受入地の公募を試行しており、平成30年度は3箇所から応募がありました。

平成31年度も引き続き民間受入地の公募と運用を行うこととしています。

参考

県土整備部の予算と推移

●平成31年度県土整備部の予算

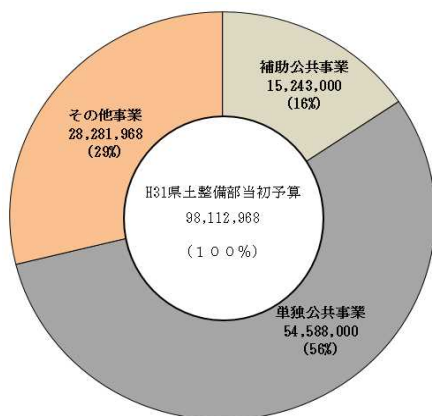
平成31年度の県土整備部予算の総額は約1,083億円となり、前年度に比べ金額では約120億円、率にして12.5%の増加となっています。

平成31年度県土整備部当初予算額一覧表

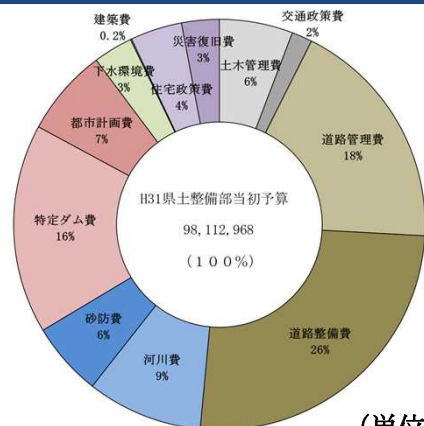
(単位：千円)

歳出予算科目	30年度(A) 当初予算額	31年度当初予算額				対前年度比 H31/H30
		補助公共	単独公共	その他事業	計(C)	
1 土木管理費	5,524,336		907,600	4,758,262	5,665,862	102.6%
2 交通政策費	1,157,545	15,000	757,104	810,926	1,583,030	136.8%
3 道路管理費	16,563,495	435,000	17,238,935	456,573	18,130,508	109.5%
11 4 道路整備費	25,163,553	9,925,958	15,213,497	2,015	25,141,470	99.9%
5 河川費	6,227,677	1,050,000	7,652,723	226,616	8,929,339	143.4%
6 砂防費	4,760,484	1,036,000	4,648,472	16,682	5,701,154	119.8%
7 特定ダム費	10,420,767		270,000	15,917,237	16,187,237	155.3%
8 都市計画費	4,672,561		6,207,329	550,424	6,757,753	144.6%
9 下水環境費	3,331,354	279,740	297,925	2,460,954	3,038,619	91.2%
10 建築費	193,769		45,834	46,357	92,191	47.6%
11 住宅政策費	4,372,642	97,725	867,581	3,023,922	3,989,228	91.2%
計	82,388,183	12,839,423	54,107,000	28,269,968	95,216,391	115.6%
14 2 災害復旧費 公共土木施設 災害復旧費	2,980,731	2,403,577	481,000	12,000	2,896,577	97.2%
一般会計 計	85,368,914	15,243,000	54,588,000	28,281,968	98,112,968	114.9%
用地先行取得 特別会計	1,403,004			1,300,928	1,300,928	92.7%
流域下水道事業費 特別会計	9,467,567		2,532,630	6,315,498	8,848,128	93.5%
総 計	96,239,485	15,243,000	57,120,630	35,898,394	108,262,024	112.5%

性質別構成（一般会計）



事業別構成（一般会計）



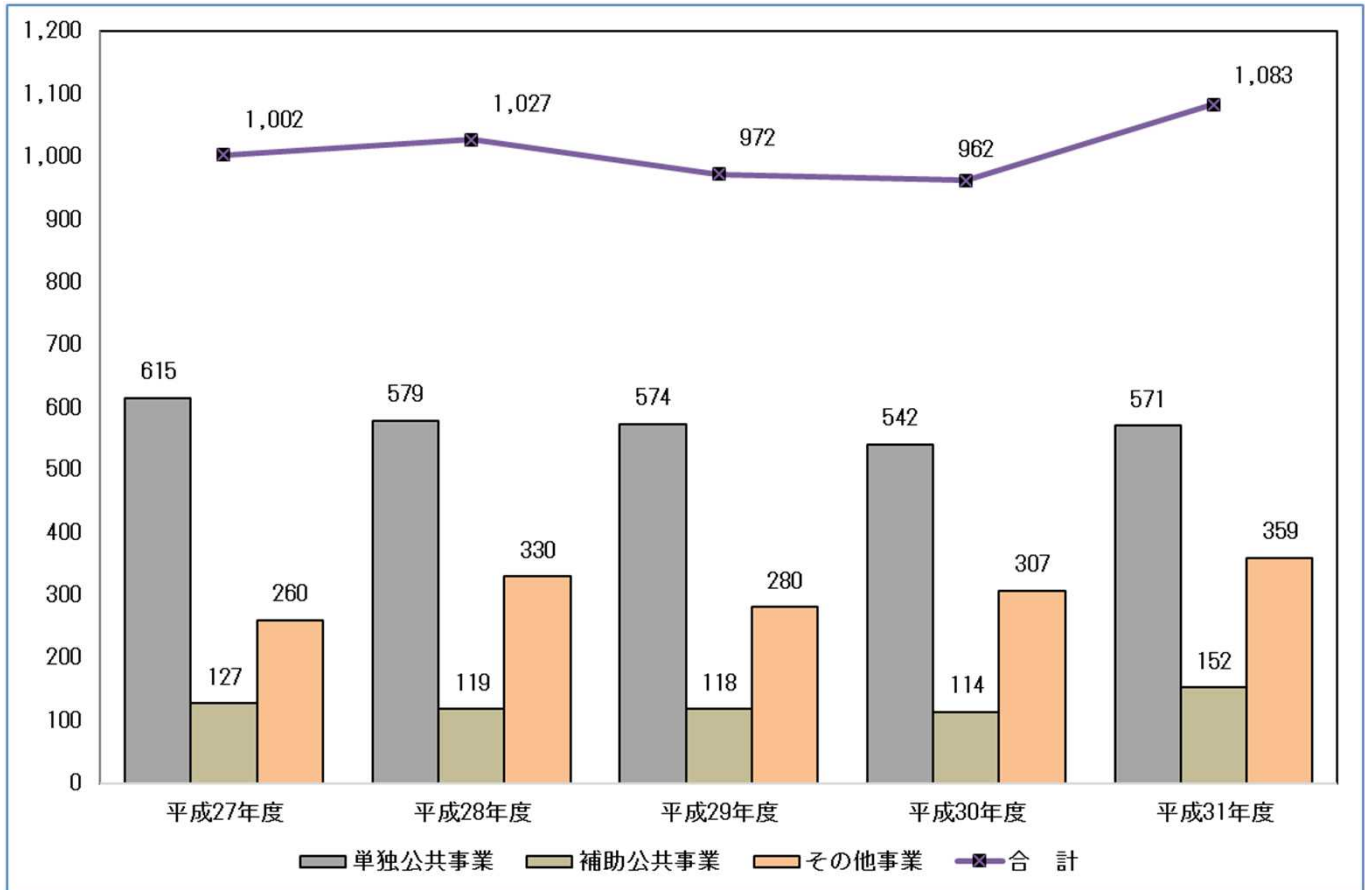
(単位：千円)

●過去5年間の県土整備部の予算推移

過去5年間の県土整備部予算推移は以下のグラフのとおりです。
H31年度の1,083億円が過去5年間のうち最高額となっています。

県土整備部の予算推移

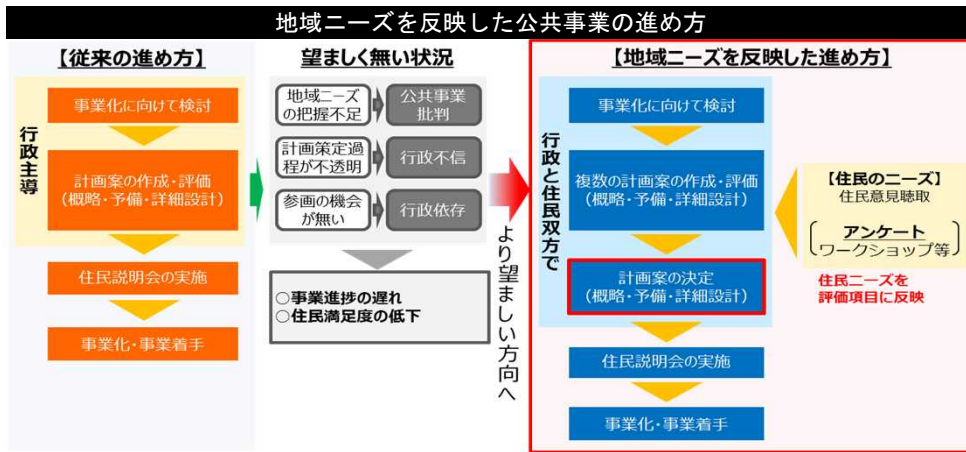
(単位：億円)



① 「地域ニーズを反映した公共事業」の推進

県民目線に立った県政の推進による県民との対話と協調をベースとした社会資本整備を推進するため、事業計画の決定プロセスの透明性の向上を図り、地域ニーズを的確に反映する必要があります。

そのため、県が決めてから県民に計画を示し、理解・協力を求める従来の進め方ではなく、アンケートなどにより、事前に地域や住民のニーズを把握し、計画に反映させる「地域ニーズを反映した公共事業」の取組を推進します。



平成30年度は県内12土木事務所で18箇所の「地域ニーズを反映した公共事業」に取り組めました。平成31年度については、道路18事業、河川1事業、砂防16事業、都市計画1事業、駅周辺整備1事業の全37事業で引き続き「地域ニーズを反映した公共事業」を取組む予定です。

取組の事例

都市計画道路 渋川高崎線 渋川市

平成30年度に都市計画道路渋川高崎線（渋川市）で実施した「地域ニーズを反映した公共事業」の事例です。

延長約500mの道路計画を決定するため、本石原、石原の2地区に約800部のアンケートを配布しました。

また、住民説明会を行い、地域の方と直接対話を重ねることで、地域の求めるニーズを把握し、道路計画に反映させました。

②「ぐんまの風景を魅せるインフラ整備」等の推進

地域の魅力を高め、「もっと訪れたくなる・もっと自慢したくなる」群馬県をつくるために、県内のインフラ施設やインフラ施設から見える風景を魅せる「ぐんまの風景を魅せるインフラ整備」等の取組を推進します。

(1) ぐんまの風景を魅せるインフラ整備事業・ぐんまの風景を魅せるインフラ維持管理事業

道路を走りながら「ぐんまの山々や街並みなどの周囲の風景」を魅せることや、「人が歩きたくなる道路」「触れたくなる河川空間」をつくるインフラ整備・維持管理を行う取組です。



(2) ぐんまの風景を魅せるインフラ施設～SNS映えするおすすめスポット～の紹介

群馬県内のインフラ施設やインフラ施設から見える風景について、その魅力を伝え、情報発信したインフラ施設や周辺地域へ人々に訪れてもらい、更なるにぎわいを創出するため、インフラに関連するSNS映えするような風景写真とその魅力を発信する取組です。



平成31年度は「ぐんまの風景を魅せるインフラ整備事業」に5箇所、「ぐんまの風景を魅せるインフラ維持管理事業」に41箇所を取組む予定です。

取組の成果については、県土整備部の公式Facebook「いいだんべえぐんまの土木」(<https://www.facebook.com/kendo.gunma>)に随時掲載していく予定です。

県道下高尾小幡線 甘楽町

取組の事例



平成30年度に甘楽町小幡地区の県道下高尾小幡線で実施した「ぐんまの風景を魅せるインフラ維持管理事業」の事例です。

県道下高尾小幡線は景観に配慮した石畳風の舗装や、縁石に御影石を用いた道づくりがされており、土木遺産の雄川堰を中心に歴史的町並みと桜並木によって、美しい風景が形成されています。

平成30年度に老朽化した縁石を清掃することで、美しい風景に調和した道路施設の姿を取り戻しました。



③「建設産業の働き方改革」の推進

建設産業は、社会資本の整備と維持管理の担い手、災害時における地域の安全・安心の守り手であるとともに、地域の経済や雇用を支える重要な役割を担っています。

将来にわたって、社会資本の着実な整備や適切な維持管理を推進し、地域の安全・安心を確保するため、建設産業の担い手の中長期的な確保・育成を支援し、建設産業の働き方改革の取組を推進します。

(1) 地域にあったICT技術の活用促進

公共工事における作業プロセスの効率化による、建設現場の生産性向上を図るため、ICT技術の積極的な活用を促進します。測量から施工・検査に至るすべてのプロセスにおいてICT技術を全面的に活用する「ICT活用工事」などに取り組みます。



群馬県では、ICT活用工事を発注者指定型と施工者希望型の2つの方式で試行しています。

平成30年度はICT舗装工事を10件、ICT土工工事を45件実施しました。

平成31年度はICT舗装工事を12件以上、ICT土工工事を24件以上発注し、引き続きICT技術の活用促進を図ります。

(主)大間々世良田BP (笠懸薮塚工区)
ICT施工による路盤工事の状況



県道前橋伊香保線 吉岡町 ICT施工による除雪工事

全国初のICT除雪!



道路除雪は安全で円滑な冬期交通を確保するため、重要な役割を担っています。

一方、熟練オペレーターの高齢化や担い手不足などの問題が深刻化する中で将来にわたり、道路除雪の技術レベルを維持していくことは重要な課題となっています。

群馬県では、平成31年1月15日から平成31年2月28日まで吉岡町の県道前橋伊香保線で全国で初となるICT技術を活用した道路除雪の試行を行い、道路除雪が抱える課題の解決に向けて取組み始めました。





県土整備部事業概要

2019年版

群馬県 県土整備部 建設企画課

【所在】 〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1

【電話】 027-226-3535

【県ホームページ】 http://www.pref.gunma.jp/06/h80g_00038.html